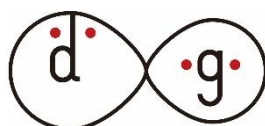


令和 6 年度 （2024 年度）

講 義 概 要

こころの時代を, ささえる人へ.

[作業療法学科]



ありがとう、と言われること。

電波学園

教育課程表

区分		医療専門課程															
		作業療法学科(基幹部)															
		指定科目	履修単位数	授業科目		必修選択の別	必修単位	総授業時間数	第1学年		第2学年		第3学年				
科目	授業形態								前期	後期	前期	後期	前期	後期			
								時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数				
基礎分野	科学的思考の基盤人間と生活社会の理解	14	医療倫理・死学	講義	必修	2	30	30	2								
			心理学	講義	必修	2	30	30	2								
			統計学	講義	必修	2	30	30	2								
			情報処理	演習	必修	2	30	30	2								
			生物学	講義	必修	2	30	30	2								
			英語	講義	必修	1	15			15	1						
			人間関係とコミュニケーション	講義	必修	1	30					30	1				
			健康と運動	講義	必修	1	30	30	1								
			総合学習論	講義	必修	1	30	30	1								
			小計	14	小計			14	255	210	12	15	1		30	1	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	12	解剖学Ⅰ	講義	必修	1	30	30	1								
			解剖学Ⅱ	講義	必修	1	30	30	1								
			解剖学Ⅲ	講義	必修	1	30			30	1						
			解剖学Ⅳ	講義	必修	1	30			30	1						
			解剖学実習	実習	必修	1	45			45	1						
			機能解剖学Ⅰ	実習	必修	1	45	45	1								
			機能解剖学Ⅱ	実習	必修	1	45			45	1						
			生理学Ⅰ	講義	必修	1	30	30	1								
			生理学Ⅱ	講義	必修	1	30			30	1						
			生理学実習	実習	必修	1	30			30	1						
			運動学Ⅰ	講義	必修	1	30	30	1								
			運動学Ⅱ	講義	必修	1	30			30	1						
			運動学実習	実習	必修	1	30			30	1						
			人間発達学	講義	必修	1	30			30	1						
			中間 小計	12	中間 小計			14	465	165	5	300	9				
			専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	14	臨床心理学	講義	必修	1	30			30	1			
						内科学	講義	必修	1	30			30	1			
						整形外科Ⅰ	講義	必修	1	30					30	1	
整形外科Ⅱ	講義	必修				1	30					30	1				
神経内科学	講義	必修				1	30					30	1				
脳神経外科学	講義	必修				1	30					30	1				
精神医学Ⅰ	講義	必修				1	30					30	1				
精神医学Ⅱ	講義	必修				1	30					30	1				
小児科学	講義	必修				1	30					30	1				
老年学	講義	必修				1	30			30	1						
地域医療学	講義	必修				1	15					15	1				
リハビリテーション医学	講義	必修				1	30	30	1								
画像診断学	講義	必修				1	30						30	1			
薬理学	講義	必修				1	15					15	1				
栄養学	講義	必修	1	15						15	1						
健康支援学	講義	必修	1	30						30	1						
中間 小計	14	中間 小計			16	435	30	1	90	3	180	7	135	5			
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	4	リハビリテーション概論	講義	必修	1	30	30	1								
			理学療法概論	講義	必修	1	15	15	1								
			言語療法概論	講義	必修	1	15	15	1								
			保健医療福祉概論	講義	必修	1	30	30	1								
			中間 小計	4	中間 小計			4	90	4							
小計	30	小計			34	990	285	10	390	12	180	7	135	5			
専門分野	基礎作業療法学	5	作業療法概論	講義	必修	2	30	30	2								
			基礎作業学	講義	必修	1	30			30	1						
			基礎作業学実習Ⅰ	実習	必修	1	30			30	1						
			作業療法研究法	講義	必修	2	30						30	2			
			中間 小計	6	中間 小計			6	120	30	2	60	2	0	0	30	2
	作業療法管理学	2	作業療法管理学	講義	必修	2	30							30	2		
			中間 小計	2	中間 小計			2	30	0	0	0	0	0	30	2	
	作業療法評価学	5	作業療法評価学Ⅰ	講義	必修	1	30			30	1						
			作業療法評価学Ⅱ	講義	必修	1	30					30	1				
			作業療法評価学Ⅲ	講義	必修	1	30						30	1			
作業療法評価学実習Ⅰ			実習	必修	1	30					30	1					
作業療法評価学実習Ⅱ			実習	必修	1	30						30	1				
中間 小計	5	中間 小計			5	150			30	1	60	2	60	2			
作業療法治療学	19	作業療法治療学Ⅰ	講義	必修	1	30					30	1					
		作業療法治療学Ⅱ	講義	必修	1	30					30	1					
		作業療法治療学Ⅲ	講義	必修	1	30					30	1					
		作業療法治療学Ⅳ	講義	必修	1	30					30	1					
		作業療法治療学Ⅴ	講義	必修	1	30					30	1					
		作業療法治療学Ⅵ	講義	必修	1	30						30	1				
		作業療法治療学Ⅶ	講義	必修	1	30						30	1				
		作業療法治療学Ⅷ	講義	必修	1	30						30	1				
		作業療法治療学ⅧC	講義	必修	1	30						30	1				
		義肢装具学	講義	必修	1	30					30	1					
		義肢装具学実習	実習	必修	1	30						30	1				
		日常生活活動学	講義	必修	1	30					30	1					
		日常生活活動学実習	実習	必修	1	30						30	1				
		レクリエーション学	講義	必修	1	30					30	1					
職業関連活動学	講義	必修	1	15						15	1						
作業療法治療学演習	演習	必修	4	120								120	4				
臨床作業療法学	講義	必修	4	120								120	4				
中間 小計	19	中間 小計			23	675	0	0	0	0	240	8	195	7	240	8	
地域作業療法学	4	地域作業療法学	講義	必修	2	30					30	2					
		生活環境学	講義	必修	2	30						30	2				
		中間 小計	4	中間 小計			4	60			30	2	30	2			
臨床実習	22	地域作業療法学実習Ⅰ	実習	必修	1	40	40	1									
		地域作業療法学実習Ⅱ	実習	必修	1	40					40	1					
		臨床実習Ⅰ(見学)	実習	必修	2	80			80	2							
		臨床実習Ⅱ(評価)	実習	必修	5	200						200	5				
		臨床実習Ⅲ(臨床)	実習	必修	16	640							640	16			
		中間 小計	25	中間 小計			25	1000	40	1	80	2	40	1	200	5	640
小計	57	小計			65	2035	70	3	170	5	370	13	545	20	880	24	
総計	101	総計			113	3280	565	25	575	18	550	20	710	26	880	24	

講義及び演習にあっては、15時間または30時間をもって1単位。実験及び実習にあっては、30時間または45時間をもって1単位。臨床実習は、40時間をもって1単位とする。

授業概要																																			
医療倫理・死学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無																																
	講義	野口 恵美	有																																
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択																																
15	30	1年・前期	必修																																
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療にかかわる人としてのあるべき姿について学ぶ 2. 目ざましく進歩する医療を知るとともに、避けることのできない人の生と死について考える機会とする。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションを必要とする人々の疾患と人の老化についてリハビリテーションスタッフとしてのかかわり。 2. 医療・介護の中でのスタッフとしての役割。 3. 人の生命の誕生と避けることのできない死について。 <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションを必要とする人々の疾患と人の老化についてリハビリテーションスタッフとしてのかかわりを知る。 2. 医療・介護の中でのスタッフとしての役割を知る。 3. 人の生命の誕生と避けることのできない死について考えることができる。 																																			
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容・備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>医療倫理・死学とは *但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>最近の医療の動向と人口の変化・課題テーマについて</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>安全・災害と日本の食</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>医療の安全・事故防止・感染症</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>リハビリテーションを必要とする施設と災害発生時の対応</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>情報開示</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>個人情報の保護</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>生活習慣病と老人の死</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ターミナル期と死をどこで迎えるか</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>宗教と死</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>医療の変化</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>自己の健康管理</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>地域との連携</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>リハビリテーションの今後の可能性</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>試験の返却とまとめ これからの職業人として</td> </tr> </tbody> </table>				回	内容・備考	1	医療倫理・死学とは *但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。	2	最近の医療の動向と人口の変化・課題テーマについて	3	安全・災害と日本の食	4	医療の安全・事故防止・感染症	5	リハビリテーションを必要とする施設と災害発生時の対応	6	情報開示	7	個人情報の保護	8	生活習慣病と老人の死	9	ターミナル期と死をどこで迎えるか	10	宗教と死	11	医療の変化	12	自己の健康管理	13	地域との連携	14	リハビリテーションの今後の可能性	15	試験の返却とまとめ これからの職業人として
回	内容・備考																																		
1	医療倫理・死学とは *但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。																																		
2	最近の医療の動向と人口の変化・課題テーマについて																																		
3	安全・災害と日本の食																																		
4	医療の安全・事故防止・感染症																																		
5	リハビリテーションを必要とする施設と災害発生時の対応																																		
6	情報開示																																		
7	個人情報の保護																																		
8	生活習慣病と老人の死																																		
9	ターミナル期と死をどこで迎えるか																																		
10	宗教と死																																		
11	医療の変化																																		
12	自己の健康管理																																		
13	地域との連携																																		
14	リハビリテーションの今後の可能性																																		
15	試験の返却とまとめ これからの職業人として																																		
<p>[使用テキスト・参考文献]テキストは使用せず。 参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本経済新聞の医療・介護に関する記事 2. ダイヤモンド・東洋経済等の週刊誌の特集記事 3. 文芸春秋、NHK きょうの健康等の月刊誌の特集記事 4. 子どもホスピスの奇跡 石井光太 新潮社 5. 国民衛生の動向 2023/2024 (厚生労働統計協会) 6. 感染対策のレシピ 矢野邦夫 (リーダームハウス) 7. 生物はなぜ死ぬのか 小林武彦 (講談社現代新書) 8. 飛鳥へそしてまだ見ぬ子へ 井村和清 (祥伝社) 9. いつか来る死 糸井重里,小堀鴎一郎 (マガジンハウス) 10. 死ねない老人 杉浦敏之 (幻冬舎) 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席態度：10% 課題発表とレポート 20% グループワークの発表と記録 10% 期末試験：60% 60%以上で合格。</p>																																	

授業概要			
心理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	増谷 千晶	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 基本的な心理学理論を理解し、人と人、人と外界がどのように関係しあっているのかを把握する。その上で、対人援助をしていく際の注意点等を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 心理学とは何か、人間の言動にはどのような特徴があるのかを考え、理解していく。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 対人援助をしていく上で、他者理解、あるいは自己理解の重要性に気づき、実際の現場でそれを生かせるようにする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	心理学とはなにか		
2	知覚の特性		
3	学習（条件付け等）		
4	記憶（長期記憶・短期記憶等）		
5	発達		
6	知能		
7	青年期（自我同一性）		
8	性格・人格		
9	人格の構造理論		
10	心理療法		
11	自己		
12	家族		
13	事例		
14	社会心理		
15	全体的なまとめ		
[使用テキスト・参考文献] リハベーシック 心理学・臨床心理学		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
統計学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	吉野 孝弘	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 統計学に関する基礎的な概念や考え方が理解出来ることを目的としている。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 業務に就いたときに必要となる統計的手法によるデータの処理や分析法について、基礎的な概念や考え方を学ぶ。講義で扱う例題には、医療分野に関連した事例を多く取り入れている。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 実際の業務に就いたときに必要となる統計的手法によるデータの処理や分析法が扱えるようになる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	統計学の概要		
2	度数分布と		
3	ヒストグラム		
4	平均と標準偏差		
5	乗法定理		
6	確率変数と率分布		
7	平均（期待値）		
8	箱ひげ図		
9	復習		
10	相関係数		
11	相関係数と級内相関係数・帰直線・一致率（ κ 係数）		
12	グループワーク		
13	グループ発表		
14	復習		
15	筆記試験		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 100 点のうち 60 点以上のいずれも満たした場合を合格とする。	

授業概要			
情報処理	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	演習	矢島 親男	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 社会常識となりつつあるパソコン知識を習得し、「情報」を活用するための操作（オペレーション）を主とし、オペレーション技術の到達と Web 利用の基礎を学び、情報活用の基本的知識と技術を習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法士の実践研究におけるデータ活用のため、統計学の活用を学ぶ。簡単な関数を使用してデータベース概念の一端を演習を通じて習得。各種研究発表の場面で活用できるようにする。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ワードプロ、表計算、Web（インターネット検索・e-Mail）操作、ホームページ作成、プレゼンテーションの操作等々。入門レベルのオペレーション技術の習得。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	パソコンの基礎		
2	電子メールの基礎		
3	ワードプロの基礎 1		
4	ワードプロの基礎 2		
5	ワードプロの基礎 3		
6	ワードプロの基礎 4		
7	ワードプロの基礎 5		
8	ワードプロの基礎 6		
9	ワードプロの基礎 7		
10	表計算の基礎 1		
11	表計算の基礎 2		
12	表計算の基礎 3		
13	表計算の基礎 4		
14	プレゼンテーションツールの活用 1		
15	プレゼンテーションツールの活用 2		
[使用テキスト・参考文献] windows10 対応 30 時間でマスター OFFICE 2016		[単位認定の方法及び基準] 学則第 16 条の 1, 2, 3, 4, 5 項を基準とする。 提出物の提出状況及び出席率 40%, 定期試験 60% 上記比率の下、60 点以上のものを合格として単位数認定	

授業概要			
生物学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	加藤 清己	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年 前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 理学療法・作業療法学科において，解剖学や生理学などの専門分野の科目を履修するにあたり，それらの科目の基礎として細胞や遺伝子から調節や代謝の過程まで幅広い生物学の知識を修得することを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 解剖学・生理学の基礎として生物学の幅広い分野を体系的に理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 生物学の理解力が医学系専門知識の基礎として応用・発展できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	生物の概念,多様性と一様性		
2	細胞の構造と機能,細胞膜		
3	生体物質,酵素		
4	メンデル遺伝,ヒトの遺伝		
5	遺伝子		
6	タンパク質合成 (1)		
7	タンパク質合成 (2)		
8	心臓,血液		
9	肝臓と腎臓		
10	神経系		
11	ホルモン,血糖量・体温調整		
12	生体防御 (1)		
13	生体防御 (2)		
14	要点のまとめと復習		
15	テストの解答と解説		
<p>【使用テキスト・参考文献】 使用テキスト 系統看護学講座 基礎3 生物学 第9版 医学書院 参考文献 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野生理学 第5版 医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 試験 80点+平常点 20点. 60点以上合格</p>	

授業概要			
英語	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	吉野 孝弘	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8	15	1年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 作業療法士になる上で必要な医学英語を知ること、医療現場で使えるようになる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 医療の現場ではいわゆる横文字や略語があふれている。そのため、医療現場で仕事をするには、医学用語を日本語だけでなく英語でも理解する必要がある。本講義では医療でよく使われる単語を中心に、簡単な英文などを交え、講義をすすめる。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 医療現場でよく用いられる、解剖学（骨・筋・神経）・運動学（運動方向・肢位）・疾患名・職種などの英単語を覚える</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	リハビリテーション・医療に関わる職種・領域作業療法と作業療法士	理学療法と理学療法士	
3	身体の方角・断面・ROM		
4	神経系・骨・筋		
5	脳血管障害・パーキンソン病		
6	骨折・腰痛・スポーツ障害		
7	英語（長文）の和訳		
8	英単語の総復習		
【参考文献】		【単位認定の方法及び基準】	
リハビリテーションの基礎英語 改訂第3版 メジカルビュー社 医学英和辞典 英和辞典		期末筆記試験：100%。60点以上合格。	

授業概要			
人間関係とコミュニケーション	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 患者・利用者との良好な人間関係の構築を目的に,人間関係論,コミュニケーション論を学ぶ。 作業療法士が狭い経験や専門性だけに依拠せず,広く人間を捉え謙虚に学び続けることを基礎とする.そして,その上に “医療の目”を育てるために,人間の尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性,医療における倫理的課題について 考えさせる.併せて,人間として必要なコミュニケーションの基礎を身につける.</p> <p>【授業全体の内容の概要】 人間の心理学的理解から人間関係の心理,人間関係形成のプロセスを概観し,活動の場に観る人間関係を知り,コミュニケーションの構成要素,態様を捉え,技法演習を通して自らのコミュニケーション能力を認識する.</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 コミュニケーションの構造を理解し,作業療法士として活動する場における自己のコミュニケーション上の課題を見出す.</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	人間らしさのはじまり		
2	主体の構造（意識と無意識）		
3	「発達」「社会性」からみた人間関係（1）		
4	「発達」「社会性」からみた人間関係（2）		
5	人間関係とストレス		
6	コミュニケーションの構造・手段（1）		
7	コミュニケーションの構造・手段（2）		
8	コミュニケーションの構造・手段（3）		
9	作業療法士のコミュニケーション（病院・施設における場合）		
10	作業療法士のコミュニケーション（在宅における場合）		
11	組織におけるコミュニケーション（1）		
12	組織におけるコミュニケーション（2）		
13	組織におけるコミュニケーション（3）		
14	演習		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 適宜資料を配布する.		[単位認定の方法及び基準] 定期試験により 60%以上を合格とする.	

授業概要			
健康と運動	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	富高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 人にとって健康と運動が身体・精神面に与えている因子について知る。運動をすることで人間関係を構築とコミュニケーションについて知る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 健康と運動では、健康(Health)の領域で運動がどのような働きをするのか学習します。リハビリテーションは対象者を健康と幸福にしていく職種です。本科目では健康者の良好な状態に着目していき、健康の諸要素について学んだ後に運動を通して実際に体験し学生同士で様々な運動を企画してもらいながら学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 健康の概念が身体・精神面に与える影響を理解し説明ができる。 人間関係を構築するためにコミュニケーションできる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション・「医療者コミュニケーション」・ロールプレイ		
2	自分とはなにか		
3	運動における準備を企画する①(企画書作成)		
4	運動における準備を企画する②(企画書作成)		
5	運動の体験①・振り返り		
6	モルック・ボッチャを実施する計画を立てる①(企画書作成)		
7	モルック・ボッチャを実施する計画を立てる②(企画書作成)		
8	種目：ボッチャ体験・モルック体験①		
9	種目：ボッチャ体験・モルック体験②		
10	学生が主体となり運動を企画する①(企画書作成)		
11	学生が主体となり運動を企画する②(企画書作成)		
12	学生が主体となり運動を実施する①		
13	学生が主体となり運動を実施する②		
14	学生が主体となり運動を実施する③		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		60点以上合格	
		・レポート課題 8割	
		・平常点(出席・授業態度)2割	

授業概要			
総合学習論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	安部 美和	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 専門科目を学習していく上で必要な読解力、表現力、基礎知識を養う。課題を通して、レジュメ・レポート作成、発表に取り組み、臨床との関連づけを行う。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 文章読解力・分析力・作成力・伝達力の向上をはかり、基礎科目の再確認をする。 臨床で必要となるコミュニケーション能力やマナーについてアクティブラーニング形式で進めていく。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 作業療法士に必要なコミュニケーション能力を身につける。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション 学力テスト		
2	評価学総論		
3	学生として備えておきたいマナー		
4	臨床実習とは		
5	グループワーク		
6	グループワーク		
7	発表		
8	発表		
9	アサーション		
10	アサーション		
11	基礎3科目学習①		
12	基礎3科目学習②		
13	基礎3科目学習③		
14	まとめ・総復習		
15	まとめ・総復習		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版」 医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 課題 50点, 筆記試験 50点 計 100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
解剖学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	畑山 直之・福重 香	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 医学の基礎と根幹をなす人体の構造について、理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 基本的な人体構造を理解し、神経系、脈管系、感覚器系、内臓系などの基礎知識を系統的に習得する。講義は器官系ごとに行うが、他の器官系との相互関係・作用について、また疾患や治癒など臨床的側面について、常に意識し個々の知識を幅広く絡めて理解すること。この科目は、総論である人体のあらましをはじめ、神経系、脈管系を中心に講義を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 細胞、組織、器官さらに各器官系の相互的構造・作用（人体のあらまし）について理解できる。神経系（中枢神経、末梢神経）脈管系（心臓、全身の動脈、静脈）について説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	人体のあらまし①		
2	中枢神経系①		
3	中枢神経系②		
4	中枢神経系③		
5	中枢神経系④		
6	中枢神経系⑤		
7	末梢神経①		
8	末梢神経②		
9	末梢神経③		
10	末梢神経④		
11	循環器系①		
12	循環器系②		
13	循環器系③		
14	循環器系④		
15	循環器系⑤		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「標準理学療法・作業療法学 解剖学第5版」医学書院 「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
解剖学Ⅱ(運動器)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	佐名木 めぐみ	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法を行うにあたり、人体構造を十分に理解することが必要である。本講義では、四肢の神経・筋・動作を中心に学ぶ。人体解剖に興味をもち怯まず勉学に励んで下さい</p> <p>【授業全体の内容の概要】 骨の構造や発生について総論的に理解する。 骨格全体の成り立ちを理解するとともに、その名称等を理解する。 骨の連結について理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 全身の骨の構造・名称とその連結について理解できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	骨の形・意味, 長管骨の構造		
3	骨の発生 吸収と形成		
4	骨連結の基本		
5	脊柱		
6	骨盤		
7	上腕(肩関節～肘関節)		
8	中間テスト 前腕		
9	手部		
10	大腿(股関節～膝関節)		
11	下腿		
12	足部		
13	頭蓋		
14	復習		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「標準理学療法・作業療法学 解剖学第5版」医学書院 「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要																																			
解剖学Ⅲ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無																																
	講義	畑山 直之・福重 香	有																																
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択																																
15	30	1年・後期	必修																																
<p>【授業の目的・ねらい】 医学の基礎と根幹をなす人体の構造について、理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 基本的な人体構造を理解し、神経系、脈管系、感覚器系、内臓系などの基礎知識を系統的に習得する。講義は器官系ごとに行うが、他の器官系との相互関係・作用について、また疾患や治癒など臨床的側面について、常に意識し個々の知識を幅広く絡めて理解すること。この科目は、感覚器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系など内臓系を中心に講義を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 感覚器系（体性感覚・特殊感覚）、消化器系（消化管系、肝臓、胆嚢、膵臓）、呼吸器系（上気道・下気道、肺）、泌尿器系（腎臓、尿路）、生殖器（男性、女性生殖器）について説明できる。</p>																																			
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容・備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>泌尿器①</td></tr> <tr><td>2</td><td>泌尿器②</td></tr> <tr><td>3</td><td>生殖器①</td></tr> <tr><td>4</td><td>生殖器②</td></tr> <tr><td>5</td><td>呼吸器①</td></tr> <tr><td>6</td><td>呼吸器②</td></tr> <tr><td>7</td><td>呼吸器③</td></tr> <tr><td>8</td><td>消化器①</td></tr> <tr><td>9</td><td>消化器②</td></tr> <tr><td>10</td><td>消化器③</td></tr> <tr><td>11</td><td>消化器④</td></tr> <tr><td>12</td><td>感覚器①</td></tr> <tr><td>13</td><td>感覚器②</td></tr> <tr><td>14</td><td>感覚器③</td></tr> <tr><td>15</td><td>感覚器④</td></tr> </tbody> </table>				回	内容・備考	1	泌尿器①	2	泌尿器②	3	生殖器①	4	生殖器②	5	呼吸器①	6	呼吸器②	7	呼吸器③	8	消化器①	9	消化器②	10	消化器③	11	消化器④	12	感覚器①	13	感覚器②	14	感覚器③	15	感覚器④
回	内容・備考																																		
1	泌尿器①																																		
2	泌尿器②																																		
3	生殖器①																																		
4	生殖器②																																		
5	呼吸器①																																		
6	呼吸器②																																		
7	呼吸器③																																		
8	消化器①																																		
9	消化器②																																		
10	消化器③																																		
11	消化器④																																		
12	感覚器①																																		
13	感覚器②																																		
14	感覚器③																																		
15	感覚器④																																		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「標準理学療法・作業療法学 解剖学第5版」医学書院 「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験。60点以上合格とする。小テスト、レポート課題、受講態度を加味する場合がある。</p>																																	

授業概要			
解剖学IV(運動器)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	佐名木 めぐみ	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法を行うにあたり、人体構造を十分に理解することが必要である。本講義では、四肢の神経・筋・動作を中心に学ぶ。人体解剖に興味をもち怯まず勉学に励んで下さい</p> <p>【授業全体の内容の概要】 骨格筋の形態と構造、種類・特長を理解する。 骨格筋の作用について理解する。 身体各所の骨格筋の具体的な起始・停止・走向・神経支配を理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 骨格筋の一般的な構造とその機能を理解する</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	筋の種類 骨格筋の構造		
2	骨格筋の形状		
3	骨格筋の補助装置について 骨格筋の作用について		
4	筋の運動について		
5	体幹の筋①		
6	体幹の筋②		
7	上腕の筋		
8	前腕の筋①		
9	前腕の筋②		
10	手部の筋		
11	大腿の筋		
12	下腿の筋		
13	総復習 自分たちで問題を作る		
14	自作問題を解く		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「標準理学療法・作業療法学 解剖学第5版」医学書院 「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
解剖学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義+実習	佐名木 めぐみ	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
23	45	1年・前期・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 骨・筋・じん帯の構造を三次元的に理解できるようになることを目的とする</p> <p>[授業全体の内容の概要] 骨模型のスケッチや骨・筋・じん帯のそれぞれの目的をレポートや討論にて解決する</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 国家試験にて出題されている問題が解けるようになる</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	上肢帯の骨のスケッチ		
3	上肢帯の骨のスケッチ		
4	上肢帯の骨のスケッチ		
5	体幹の骨のスケッチ		
6	体幹の骨のスケッチ		
7	下肢帯の骨のスケッチ		
8	下肢帯の骨のスケッチ		
9	下肢帯の骨のスケッチ		
10	口頭試問・小テスト		
11	関節の形態		
12	骨連結の仕組み①		
13	骨連結の仕組み②		
14	筋肉の構成について①		
15	筋肉の構成について②		
16	筋肉の構成について③		
17	献体解剖実習に向けての講義		
18	献体解剖実習に向けての講義		
19	献体解剖実習に向けての講義		
20	献体解剖実習に向けての講義		
21	献体解剖実習に向けてのレポート作成		
22	献体解剖実習に向けてのレポート作成		
23	献体解剖実習に向けてのレポート作成		
<p>[使用テキスト・参考文献] 骨格筋の形と触察法 第2版 大峰閣,「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」,エッセンシャル解剖学テキスト&アトラス」南江堂,「機能解剖で斬る神経系疾患」木元省美堂</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 小テスト及び提出物の提出状況=40% 定期試験=60% 上記比率の下, 60点以上のものを合格とし単位認定する。</p>	

授業概要			
機能解剖学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	佐名木 めぐみ・松木平 和人・木立 美由紀	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
23	45	1年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 作業療法士に必要な触察について学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 筋肉・骨・神経・血管について、実習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 作業療法士において必要な触察技術を身につけることができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	肩甲骨 僧帽筋		
3	肩甲挙筋 小菱形筋 大菱形筋		
4	広背筋		
5	頭板状筋 頸板状筋		
6	長肋筋 最長筋 腰方形筋		
7	胸鎖乳突筋 前斜角筋 中斜角筋		
8	大胸筋 小胸筋 鎖骨下筋		
9	腹直筋 外腹斜筋 内腹斜筋		
10	実技試験対応		
11	実技試験対応		
12	三角筋		
13	棘上筋 棘下筋 小円筋		
14	大円筋 肩甲下筋		
15	上腕二頭筋 烏口腕筋		
16	上腕筋		
17	上腕三頭筋		
18	肘筋		
19	実技試験対応		
20	実技試験対応		
21	実技試験 口頭試問		
22	実技試験 口頭試問		
23	まとめ		
<p>[使用テキスト・参考文献] 骨格筋の形と触察法 第2版 大峰閣 水着など触察できる服装を用意すること ウエットティッシュも各自用意すること</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 実技試験 60点, 小テスト 20点, 口頭試問 20点, 60点以上合格</p>	

授業概要			
機能解剖学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	佐名木 めぐみ・松木平 和人・木立 美由紀	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
23	45	1年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 作業療法士に必要な触察について学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 筋肉・骨・神経・血管について、実習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 作業療法士において必要な触察技術を身につけることができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	円回内筋 橈側手根屈筋 長掌筋 尺側手根屈筋		
2	浅指屈筋 深指屈筋 長母指屈筋 方形回内筋		
3	尺側手根伸筋 小指伸筋 総指伸筋		
4	長母指外転筋 短母指伸筋 長母趾伸筋 示指伸筋		
5	実技試験対応		
6	実技試験対応		
7	腸骨筋 大腰筋		
8	大殿筋		
9	中殿筋 小殿筋		
10	大腿筋膜張筋		
11	縫工筋		
12	大腿四頭筋		
13	大腿二頭筋		
14	薄筋 長内転筋 大内転筋		
15	前脛骨筋 長趾伸筋 第三腓骨筋 長母趾伸筋		
16	長腓骨筋 短腓骨筋		
17	下腿三頭筋		
18	長趾屈筋 長母趾筋 後脛骨筋		
19	実技試験対応		
20	実技試験対応		
21	実技試験 口頭試問		
22	実技試験 口頭試問		
23	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 骨格筋の形と触察法 第2版 大峰閣 水着など触察できる服装を用意すること ウエットティッシュも各自用意すること		[単位認定の方法及び基準] 実技試験 60点, 小テスト 20点, 口頭試問 20点, 60点以上合格	

授業概要			
生理学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	宮津 真寿美	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 生理学とはどのような仕組みで私たちの体が正常に機能しているのかを追求する学問である。人体のさまざまな器官は、たくみに機能しており、それらの働きは驚くほど精妙に調節されている。この正常な仕組みが破たんすると、疾病になる。医療専門職をみざすにあたって、体の正常な仕組みを学ぶことは非常に大事である。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 生理学 I では、神経系、筋系、骨格系、感覚系などの動物性器官において、我々の体がどのように機能しているかを学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 神経系、筋系、骨格系、感覚系などの動物性器官における各器官の特徴と機能が説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	生理学総論：生理学とは、身体の階層性（組織、器官、器官系）、生命現象（エネルギー産生）		
2	生理学総論：水（体液、浸透圧）、ホメオスタシスと負のフィードバック 細胞の構造と機能：細胞膜、核、細胞小器官		
3	細胞の構造と機能：静止電位と活動電位 神経の興奮伝導と末梢神経：神経細胞の構造、興奮の発生と伝導		
4	神経の興奮伝導と末梢神経：末梢神経の種類、シナプスにおける興奮の伝達		
5	神経の興奮伝導と末梢神経：自律神経		
6	中枢神経系：中枢神経とは、脊髄、脊髄反射		
7	中枢神経系：脳幹、小脳、間脳、大脳皮質		
8	中枢神経系：脳の高次機能、大脳基底核と脳梁、辺縁系、脳室と脳脊髄液 筋と骨：筋の分類、骨格筋構造		
9	筋と骨：筋の分類、骨格筋（構造、神経による支配、興奮収縮連関、骨格筋の収縮）		
10	筋と骨：骨格筋（骨格筋線維の種類、肥大と萎縮、筋紡錘と Golgi 腱器官、筋電図）		
11	筋と骨：心筋、平滑筋、骨		
12	感覚：感覚とは、体性感覚（皮膚感覚、深部感覚）、内臓感覚		
13	感覚：特殊感覚（視覚）		
14	感覚：特殊感覚（聴覚と平衡感覚、味覚、嗅覚）		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法・作業療法 専門基礎分野 生理学第 6 版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験。60 点以上合格。	

授業概要			
生理学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	宮津 真寿美	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 生理学とはどのような仕組みで私たちの体が正常に機能しているのかを追求する学問である。人体のさまざまな器官は、たくみに機能しており、それらの働きは驚くほど精妙に調節されている。この正常な仕組みが破たんすると、疾病になる。医療専門職をみざすにあたって、体の正常な仕組みを学ぶことは非常に大事である。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 生理学Ⅱでは、循環系、呼吸系、消化器系、内分泌系などの動物性器官において、我々の体がどのように機能しているかを学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 循環系、呼吸系、消化器系、内分泌系などの動物性器官における各器官の特徴と機能が説明できる。 器官内、器官間の調節機能が説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	血液：血液の組成と機能，赤血球（形態，数，酸素の運搬，溶血，貧血）		
2	血液：白血球（分類と機能，防御機構），血小板（形態と機能，凝固，線溶），血漿（電解質，グルコース，血漿タンパク質），血液型		
3	心臓と循環：血液の循環，心臓の興奮と刺激伝達系，心電図（導出法，Einthovenの正三角形と電気的心軸，波形異常）		
4	心臓と循環：血液の拍出と血圧，心周期，前負荷・後負荷と収縮性		
5	心臓と循環：血圧の調整（筋原性，液性，自律神経，腎臓），微小循環と物質交換，静脈還流，臓器循環，リンパ循環		
6	呼吸：外呼吸と内呼吸，気道と肺胞，呼吸運動，呼吸気量，ガス交換とガス運搬		
7	呼吸：呼吸の調節，病的呼吸，尿の生成と排泄，腎臓の役割，腎臓の構造，尿の生成		
8	尿の生成と排泄：クリアランス，排尿，尿の性状と排尿異常		
9	酸塩基平衡：血漿のpH調節，アシドーシスとアルカローシス 消化と吸収：消化器の役割，口腔内消化と嚥下		
10	消化と吸収：食道，胃，十二指腸，回腸・空腸		
11	消化と吸収：大腸，肝臓 内分泌：ホルモンの役割，種類，分泌調節，各腺から分泌させるホルモン		
12	内分泌：各腺から分泌されるホルモン		
13	生殖と発生・成長と老化：男性生殖機能，女性生殖機能，受精・着床胎児の発達		
14	代謝と体温：栄養素，エネルギー代謝，体温		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法・作業療法 専門基礎分野 生理学第6版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
生理学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	富高 史裕	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 生理学は機能(働き)を研究している。実験を通して講義で得た、生理学の知識の裏付けになるよう、ヒトにおける各機能の役割を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 各実験項目を行う前に、その目的と基礎知識を得るための講義や実験で学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ヒトにおける生理学的な機能を理解し、各人が自分の言葉で説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	血圧と脈拍とは①(事前学習)		
2	血圧と脈拍とは②(講義と実験)		
3	血圧と脈拍とは③(実験)		
4	心臓の役割、心電図とは①(事前学習)		
5	心臓の役割、心電図とは②(講義)		
6	心臓の役割、心電図とは③(実験 1)		
7	心臓の役割、心電図とは④(実験 2)		
8	呼吸すること、呼吸機能の測定①(事前学習)		
9	呼吸すること、呼吸機能の測定②(講義)		
10	呼吸すること、呼吸機能の測定③(実験 1)		
11	呼吸すること、呼吸機能の測定④(実験 2)		
12	感覚機能、皮膚感覚とは①(事前学習)		
13	感覚機能、皮膚感覚とは②(講義と実験)		
14	感覚機能、皮膚感覚とは③(実験)		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 資料配布 医学書院		[単位認定の方法及び基準] ①レポート課題(5割). ②筆記試験(5割) ①と②の合計で60点以上を合格.	

授業概要			
運動学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	富高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士は客観的に身体運動を理解しなければならない。この講義では身体運動がどのように発現しているのか、どのように表れているのか、ということ学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法士が動作分析を行う上で基本的な用語を理解し、解剖学・生理学と結び付けられるようにする。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>①身体の運動をメカニズムとして捉えて理解する。 ②運動学実習に向けて医学用語を理解し客観視することが出来る。 ③互いに医学用語(専門用語)を使って他者に伝えることが出来る。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	運動学とは		
2	姿勢とは(重心・重心線・アライメント・基底面・体重・抗重力筋)		
3	基本姿勢、日常生活動作、随意運動、代償運動の観察		
4	上肢の運動（上肢の運動の特徴,肩複合体)		
5	上肢の運動（肘関節と前腕)		
6	上肢の運動（手関節,手・指)		
7	下肢の運動（下肢の構成,股関節の運動)		
8	下肢の運動（膝関節の運動)		
9	下肢の運動（足関節および足部の運動,下肢の運動連鎖,下肢筋と運動連鎖の関係)		
10	体幹の運動（脊柱の運動,頸椎と頸部の運動)		
11	体幹の運動（胸椎と胸郭の運動,腰椎と腰部の運動,骨盤の構造と仙腸関節の運動)		
12	体幹の運動（呼吸・エネルギー代謝・代謝当量)		
13	頭部の運動（顔面運動)		
14	頭部の運動（咀嚼運動,嚥下運動)		
15	まとめ		
<p>【使用テキスト】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学</p> <p>【参考文献】 基礎運動学 第6版 補訂版 22刷 宮本省三：人間の運動学 協同医書出版 松房利憲：運動学で心が折れる前に読む本 医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>①小テスト 20点 ②グループワーク・発表・取り組み姿勢 20点 ③筆記試験 60点</p> <p>①～③の合計で 60点以上が合格</p>	

授業概要																																			
運動学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無																																
	講義	富高 史裕	有																																
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択																																
15	30	1年・後期	必修																																
<p>【授業の目的・ねらい】 本講義では、前期に覚えた医学用語・知識を活用して実動作の中で身体運動を観察して他者に伝えることができるようになる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 静的姿勢・動的姿勢・歩行を実際に行うことで、正常な身体運動とは何かを学ぶ。 身体運動の中で運動学習とはなにかを知り、学習理論を応用できるようになる。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 姿勢分析・歩行分析・運動学習を理解し、観察したことを分析し、動作分析の手順に合わせて書き出し、他者に伝えることができるようになる。</p>																																			
<p>授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容・備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>運動の発達①（運動発達の指標・姿勢発達）</td></tr> <tr><td>2</td><td>運動の発達②（物品操作の発達・基本動作の発達）</td></tr> <tr><td>3</td><td>最適姿勢と姿勢評価</td></tr> <tr><td>4</td><td>姿勢分析（ペアワーク）</td></tr> <tr><td>5</td><td>姿勢分析 発表(ペア)</td></tr> <tr><td>6</td><td>歩行とは,歩行周期と距離時間因子</td></tr> <tr><td>7</td><td>歩行のキネマティクス,歩行の運動力学</td></tr> <tr><td>8</td><td>歩行の筋電図,歩行のエネルギー論と最適歩行,歩行の開始と停止</td></tr> <tr><td>9</td><td>歩行分析（グループワーク）</td></tr> <tr><td>10</td><td>歩行分析 発表（グループワーク）</td></tr> <tr><td>11</td><td>運動学習とは,学習と記憶</td></tr> <tr><td>12</td><td>運動学習理論の歴史的展開,生態学的アプローチ概論</td></tr> <tr><td>13</td><td>スキーマ理論概論,運動学習研究技法,運動学習の実験デザイン</td></tr> <tr><td>14</td><td>まとめ</td></tr> <tr><td>15</td><td>基礎を臨床につなげるには</td></tr> </tbody> </table>				回	内容・備考	1	運動の発達①（運動発達の指標・姿勢発達）	2	運動の発達②（物品操作の発達・基本動作の発達）	3	最適姿勢と姿勢評価	4	姿勢分析（ペアワーク）	5	姿勢分析 発表(ペア)	6	歩行とは,歩行周期と距離時間因子	7	歩行のキネマティクス,歩行の運動力学	8	歩行の筋電図,歩行のエネルギー論と最適歩行,歩行の開始と停止	9	歩行分析（グループワーク）	10	歩行分析 発表（グループワーク）	11	運動学習とは,学習と記憶	12	運動学習理論の歴史的展開,生態学的アプローチ概論	13	スキーマ理論概論,運動学習研究技法,運動学習の実験デザイン	14	まとめ	15	基礎を臨床につなげるには
回	内容・備考																																		
1	運動の発達①（運動発達の指標・姿勢発達）																																		
2	運動の発達②（物品操作の発達・基本動作の発達）																																		
3	最適姿勢と姿勢評価																																		
4	姿勢分析（ペアワーク）																																		
5	姿勢分析 発表(ペア)																																		
6	歩行とは,歩行周期と距離時間因子																																		
7	歩行のキネマティクス,歩行の運動力学																																		
8	歩行の筋電図,歩行のエネルギー論と最適歩行,歩行の開始と停止																																		
9	歩行分析（グループワーク）																																		
10	歩行分析 発表（グループワーク）																																		
11	運動学習とは,学習と記憶																																		
12	運動学習理論の歴史的展開,生態学的アプローチ概論																																		
13	スキーマ理論概論,運動学習研究技法,運動学習の実験デザイン																																		
14	まとめ																																		
15	基礎を臨床につなげるには																																		
<p>【使用テキスト】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学 【参考文献】 基礎運動学 第6版 補訂版 22刷 宮本省三：人間の運動学 協同医書出版 松房利憲：運動学で心が折れる前に読む本 医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 ①レポート(50点：S50点,A40点,B30点,C20点の4段階評価. 提出期限の厳守, 内容判断) ②発表・取り組み姿勢 10点 ③筆記試験 40点 ①～③の合計で60点以上が合格</p>																																	

授業概要			
運動学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	富高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 運動学実習では、人体の仕組みと運動を解剖学・運動学・生理学の基本として理解する。運動・動作課題を目で見て確かめ、理解を深めつつ、レポート課題の記載方法について学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 人体の仕組みと運動を分析する</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 運動の位置づけができる レポートの記載方法が理解できる</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	重心とは		
3	重心動揺		
4	重心動揺（実験1：重心動揺の要因）		
5	実験1発表・レポート：歩行とは		
6	歩行分析		
7	歩行分析（関節と筋活動）		
8	歩行分析（実験2：歩行(正常歩行・異常歩行)）		
9	実験2発表・レポート：異常歩行（跛行）とは		
10	異常歩行（跛行）調査		
11	異常歩行（跛行）発表・レポート提出		
12	マイオモーションによる歩行分析・異常歩行分析		
13	運動学習とは		
14	運動学習（実験3：運動学習効果）		
15	実験3発表・レポート提出・まとめ		
<p>【使用テキスト】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学</p> <p>【参考文献】 基礎運動学 第6版 補訂版 22刷</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>①レポート(50点：S50点,A40点,B30点,C20点の4段階評価. 提出期限の厳守, 内容(丁寧・誤字脱字の有無・課題に準ずる内容かどうか)判断)学校指定のレポート用紙に記載すること</p> <p>②発表 25点</p> <p>③取り組み姿勢 25点</p> <p>①～③の合計で 60点以上が合格</p>	

授業概要			
人間発達学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	森 明美	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 人間発達を生涯発達という視点で、胎生期から老年期に至るまでの発達段階ごとに、それぞれの身体、運動、認知機能、社会生活、心理面等での発達の特徴、課題を理解する。その中で定型発達についての知識を得ることで、臨床場面で出会う多様な個人を発達という観点から理解できるようにする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 人間の発達をそれぞれの時期に分け、その時期での定型発達を学ぶ。また、自身の発達を振り返り、自分の家族や自分を取りまく状況を見つめなおすことでより具体的に人間発達を学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 人間の発達における定型発達を理解し、臨床場面で出会う対象者を発達という観点から理解し、多様性のある中でもそれぞれの個人の発達特徴・発達課題について考えられるようにする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	発達とは、発達理論		
2	胎生期の発達		
3	新生児期の発達		
4	乳児期の発達①		
5	乳児期の発達②		
6	幼児期の発達①		
7	幼児期の発達②		
8	幼児期までに出現する発達上の問題		
9	発達検査		
10	児童期,青年期の発達		
11	児童期から思春期の心の問題		
12	成人期の発達		
13	老年期の発達		
14	老年期の問題		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法・作業療法 「人間発達学」		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 70点 平常点 30点 (レポート課題) 60点以上合格	

授業概要			
臨床心理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	森 明美	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 医療従事者として、現場で必要とされる臨床心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、対人援助職として対象者を個別に理解し、どのように関わっていけばいいかを考える機会とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 誰にでも起こりうる「こころの問題」を理解するために、人格理論、心理アセスメントについて学ぶ。また対象者にアプローチする方法として様々な心理療法についての知識を得る。同時に自己理解を深めていけるように、心理アセスメントなどの演習も行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 対人援助職に必要な人格理論、心理アセスメント、心理療法の用語が具体的に理解できている。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	臨床心理学とは		
2	フロイトの理論 防衛機制		
3	防衛機制 障害の受容		
4	心理アセスメント①		
5	心理アセスメント②		
6	心理アセスメント③（演習）		
7	神経症とは		
8	パーソナリティ障害・精神障害		
9	発達障害		
10	心理療法①心理療法の基本態度		
11	心理療法②行動的		
12	心理療法③内面的		
13	心理療法④演習		
14	心理療法⑤相談的		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] リハベーシック 心理学・臨床心理学		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 80点+平常点（レポート課題）20点 60点以上合格	

授業概要			
内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	篠崎 仁史	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8	10	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>内科学系を学ぶにあたって大切なことは「概念」を理解することです。概念を理解するためにはその元となる基本的な知識（解剖学などの基礎医学的知識）が必要となります。1年生の段階では内科学と並行して基礎医学的知識を習得するように心がけてください。本講義では内科学の知識習得を目的として、指定テキストに沿って講義を進めます。また療法士としての着眼点を「理学作業療法との関連事項」などを中心に学びます。さらに近年の国家試験の出題傾向についても随時補足していきます。質問等は講義中または講義終了後に随時発言してください。</p> <p>また折に触れて、皆さんが成長するための「社会人としての心構え」を助言していきます。本講義を通じて共に学び成長していきましょう。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>その他 ①在学中に「一次救命講習（CPRとAED）」の受講を推奨します。 ②読書の励行，図書館（校内・他大学・公共）の利用を推奨します。 ③医療従事者として（喫煙者は）「禁煙」を推奨します。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	第4章（循環器疾患・総論）		
2	第4章（循環器疾患・各論）		
3	第5章（呼吸器疾患・総論）		
4	第5章（呼吸器疾患・各論）		
5	第9章（代謝性疾患）		
6	第10章（内分泌疾患疾患）		
7	第11章（腎泌尿器疾患）		
8	試験解説および総括		
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>大成浄志「標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版」 医学書院</p> <p>必要時に資料配布や文献紹介を加えます</p> <p>その他</p> <p>① 在学中に「一次救命講習（CPRとAED）」の受講を推奨します。</p> <p>② 読書の励行，図書館（校内・他大学・公共）の利用を推奨します。</p> <p>③ 医療従事者として（喫煙者は）「禁煙」を推奨します。</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>期末科目試験をもとに総合的に評価します。 ※事前の予習状況や講義中の積極性を総合評価に加味します。</p>	

授業概要			
内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義		有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
5	10	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 造血組織，造血機構，造血幹細胞について理解する。 白血病，リンパ腫，骨髄腫といった造血器腫瘍の診断，治療を理解する。 血友病，血小板減少症といった出血性疾患及び血栓性疾患を理解する。 鉄欠乏性貧血をはじめ，代表的な貧血性疾患を理解する。 造血幹細胞移植を含め，最新の血液学の診断，治療の進歩を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 造血機構及び造血器疾患，出血性疾患，血栓性疾患，貧血性疾患の診断，治療の解説</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 造血機構及び造血器疾患，出血性疾患，血栓性疾患，貧血性疾患の診断，治療についての理解を深められる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	造血機構，造血幹細胞の分化，機能		
2	白血病，リンパ腫，骨髄腫		
3	出血性疾患と血栓性疾患		
4	貧血		
5	造血幹細胞移植と最新の血液学の進歩		
<p>【使用テキスト・参考文献】 使用テキスト：標準理学療法学・作業療法学 内科学 第2版 医学書院 参考文献： 1. わかりやすい内科学 文光堂 2. 老年医学テキスト メディカルビュー社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60点以上合格</p>	

授業概要			
内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	堀米 秀夫	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
5	10	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 内科学の概念を学ぶ</p> <p>【授業全体の内容の概要】 内科学の概念から消化器系の内科疾患を近年の現状を踏まえながら授業を進める</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 内科学の概念を学び、リハビリテーション施行時の事前知識や対応について理解する</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	内科学総論		
2	症候学		
3	消化器総論, 上部消化管		
4	下部消化管, 胆, 膵		
5	肝, 胃ろう		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版		筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
整形外科学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	齋木 寛	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 整形外科学は、骨、関節、筋肉、脊髄、末梢神経－運動器－の疾患とその治療を扱う、リハビリテーション学とは関連の深い学問です。整形外科の主要な疾患の症状、診断、治療を中心の講義します</p> <p>【授業全体の内容の概要】 整形外科基礎、画像診断、関節リウマチ、上下肢の関節疾患、腫瘍、感染症などについて講義を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 整形外科基礎および各疾患の病態、治療法について理解する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	代謝・内分泌疾患（骨粗鬆症）		
2	変形性疾患，神経病性関節症		
3	炎症性疾患（リウマチの1部まで）		
4	リウマチ，感染性疾患		
5	炎症性疾患，先天性疾患の一部		
6	先天性疾患，四肢循環障害		
7	壊死性疾患，腫瘍（特徴）		
8	骨・軟部腫瘍		
9	神経・筋疾患		
10	脊椎疾患		
11	脊椎疾患，側弯症		
12	変形性脊椎疾患，廃用症候群（1部）		
13	廃用症候群など		
14	炎症性疾患，腫瘍，神経疾患など		
15	整形外科全般（まとめ）		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学「整形外科学」 医学書院 参考文献：医学書院 標準整形外科学</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
整形外科学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	齋木 寛	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 整形外科学は、骨、関節、筋肉、脊髄、末梢神経－運動器－の疾患とその治療を扱う、リハビリテーション学とは関連の深い学問です。整形外科の主要な疾患の症状、診断、治療を中心の講義します</p> <p>[授業全体の内容の概要] 整形外科の基礎知識と関連事項</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 上記目的・ねらいの達成</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	骨折一般		
2	各論（脊椎骨骨折、骨盤骨折など）		
3	骨折（上肢一般）		
4	下肢骨折一般		
5	脊髄損傷		
6	捻挫、脱臼、神経損傷（1部）		
7	末梢神経の外傷性疾患		
8	腱・靭帯損傷、スポーツ障害		
9	腱・靭帯損傷、スポーツ障害		
10	スポーツ障害、各論		
11	スポーツ障害、熱傷		
12	切断（原因、切断の実際）		
13	義手、義足（種類、構造）		
14	整形外科後期全般まとめ（外傷性疾患、脊椎疾患など）		
15	外傷一般など		
<p>[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法学・作業療法学「整形外科学」 医学書院 参考文献：医学書院 標準整形外科学</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
神経内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	篠崎 仁史	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 本講義では神経内科学の知識習得を目的として、指定テキストに沿って講義を進めます。また療法士としての着眼点を「理学作業療法との関連事項」を中心に学びます。さらに近年の国家試験の出題傾向についても随時補足していきます。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 本講義では神経内科学の知識習得を目的として、指定テキストに沿って講義を進めます。また療法士としての着眼点を「理学作業療法との関連事項」を中心に学びます。さらに近年の国家試験の出題傾向についても随時補足していきます。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>①在学中に「一次救命講習（CPRとAED）」の受講を推奨します。 ②読書の励行、図書館（校内・他大学・公共）の利用を推奨します。 ③医療従事者として（喫煙者は）「禁煙」を推奨します。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	第1・2章（神経系の解剖および理学的所見）		
2	第3・4章（神経疾患の評価と診断）		
3	第5・6章（神経徴候1；意識障害、頭部症状）		
4	第7～9章（運動系の障害（錐体路、錐体外路、運動失調）		
5	第10・24章（感覚系の障害と疾患）		
6	第11～16章（高次脳機能障害）		
7	第17～19章（神経徴候2；構音障害、嚥下障害）		
8	第20・23章（脳血管障害、外傷性脳損傷）		
9	第21章（認知障害と疾患）		
10	第25・26章（中枢神経系変性疾患、脱髄疾患）		
11	第27～29章（末梢神経系疾患）		
12	第30～32章（筋疾患、神経筋接合部疾患）		
13	第33～35章（神経徴候3；廃用症候群、排尿障害）		
14	補足事項・総まとめ		
15	試験解説および総括		
<p>【使用テキスト・参考文献】 川平知美（編）『標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第5版』医学書院 資料配布や文献紹介を随時加えます。</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 平常点および期末科目試験を総合的に評価し、必要時に再試験、課題等。 ※「平常点」は予習状況や講義中の積極性を評価対象とします</p>	

授業概要			
脳神経外科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	山田 宣夫	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 神経の障害を引き起こす主な疾患の病因,病態生理,症状,徴候,診断,治療を学ぶ 【授業全体の内容の概要】 中枢神経系,末梢神経系の障害は理学療法士,作業療法士にとって,対象疾患として整形外科疾患と共に多くを占めるものである.これらの疾患を理解することは治療に必須のものである 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 神経障害の広範な知識により,国家試験の関連問題を正解に導く力をつけること			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	中枢神経系の解剖と機能		
2	神経学的検査法		
3	神経症候学 (1) 意識覚醒レベル		
4	神経症候学 (2) 錐体路徴候		
5	脳血管障害		
6	頭部外傷,血腫		
7	運動ニューロン障害復習		
8	中間テスト		
9	神経症候学 (3) 錐体外路徴候		
10	脱髄・変性疾患		
11	感染・炎症性疾患 (脳炎,髄膜炎)		
12	末梢神経・筋の障害		
13	脳腫瘍		
14	認知症		
15	試験解説		
[使用テキスト・参考文献] 標準脳神経外科学／医学書院		[単位認定の方法及び基準] 中間テスト 50点,期末テスト 50点, 60点以上合格	

授業概要			
精神医学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	八木 亮	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士に必要な精神医学的知識の習得</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法士に必要な精神医学的知識の習得の仕方と 現場で伝える手法とその原理を分かりやすく講義する</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 作業療法士に必要な精神医学的知識の習得</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	精神症状学 1		
2	精神症状学 2		
3	統合失調症・妄想性障害 1		
4	統合失調症・妄想性障害 2		
5	統合失調症・妄想性障害 3		
6	気分（感情）障害 1		
7	気分（感情）障害 2		
8	てんかん 1		
9	てんかん 2		
10	神経症・ストレス関連障害・身体表現性障害 1		
11	神経症・ストレス関連障害・身体表現性障害 2		
12	国試テスト 1		
13	国試テスト 2		
14	国試テスト 3		
15	前期まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第 4 版増補版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60 点以上合格.</p>	

授業概要			
精神医学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	八木 亮	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士に必要な精神医学的知識の習得の仕方と 現場で伝える手法とその原理を分かりやすく講義する</p> <p>【授業全体の内容の概要】 講義</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 作業療法士に必要な精神医学的知識の習得</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	パーソナリティ障害		
2	薬物・アルコール依存 1		
3	薬物・アルコール依存 2		
4	器質性・症状性精神障害		
5	老年期精神障害		
6	児童・青年期の精神障害 1		
7	児童・青年期の精神障害 2		
8	児童・青年期の精神障害 3		
9	摂食障害・その他		
10	精神科治療総論 1		
11	精神科治療総論 2		
12	精神科治療総論 3		
13	国試テスト対策 1		
14	国試テスト対策 2		
15	後期まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第 4 版増補版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60 点以上合格.</p>	

授業概要			
小児科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	伊藤 知美	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 理学・作業療法を行う上で、必要な小児科学の知識を学び、現場での総合的な判断力を養う</p> <p>[授業全体の内容の概要] 小児科の基礎知識と関連事項</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 上記、目的・ねらいの達成</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	小児科学総論①		
2	小児科学総論②		
3	小児科学総論③+診断と治療		
4	新生児・未熟児総論		
5	先天異常と遺伝病①		
6	先天異常と遺伝病②		
7	神経・筋・骨系疾患①		
8	神経・筋・骨系疾患②		
9	循環器疾患		
10	呼吸気疾患		
11	感染症・消化器疾患①		
12	感染症・消化器疾患②内分泌・代謝疾患		
13	血液疾患，免疫・アレルギー疾患他		
14	腎，腫瘍性疾患他（テスト範囲の説明）		
15	試験解説，講義の総括・補足		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法学・作業療法学 小児科学/医学書院		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60点以上合格.	

授業概要			
老年学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	伊藤 知美	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 老年学の概念を学ぶ 【授業全体の内容の概要】 老年学の概念，基礎知識を学び，高齢者医療におけるリハビリテーションの役割 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 老年学の概念，基礎知識を習得し，高齢者医療におけるリハビリテーションの役割を理解する			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	序説～老化，加齢変化①生理機能		
2	加齢変化②運動機能，精神心理面 高齢者へのアプローチ／人口動態		
3	高齢者の機能評価①		
4	高齢者の機能評価②		
5	退院支援，老年症候群各論①		
6	老年症候群②		
7	循環器疾患		
8	呼吸器疾患		
9	消化器疾患		
10	骨・運動器疾患		
11	神経疾患，精神疾患		
12	神経疾患，精神疾患，内分泌代謝疾患		
13	血液・免疫疾患，腎・泌尿器疾患		
14	皮膚・口腔疾患，感染症 試験について		
15	試験解説 耳鼻咽喉疾患，眼疾患，ほか補足		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
標準理学療法・作業療法 老年学／医学書院		筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
地域医療学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	恒川 幸司	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8	15	2年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 地域における医療・看護・介護の現状を理解し,Common disease（临床上良く見られる疾患）に対する知識を得て,リハビリテーションを始めとした予防法・治療法を学ぶ.</p> <p>[授業全体の内容の概要] PBL（problem based learning）と呼ばれる方法で,グループでの討論を基に勉強して,それぞれの疾患を持った患者さんの問題を自分たちで解決していく.講義はあくまでも学生自身の学びの助けとして行う.</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 将来,地域でのリハビリテーションに必要となる疾病に関する知識が習得できる. ● 自分自身で勉強して患者さんの問題を解決することができる. 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	地域医療とは? インフルエンザ		
2	生活習慣病		
3	心疾患		
4	呼吸器疾患		
5	癌		
6	認知症		
7	脳血管障害・多職種連携		
8	フィードバック		
[使用テキスト・参考文献] 特になし. 毎回講義資料配布		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験,学習態度の合計 60 点以上合格. 筆記試験 95% 学習態度 5%	

授業概要			
リハビリテーション医学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	矢野 義人	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 【授業全体の内容の概要】 リハビリテーションを医師の立場からわかりやすく説明・講義する。臨床の各論としてリハプログラム、脳卒中や脊髄損傷、脳性麻痺などの中枢疾患から末梢神経損傷や切断、心疾患、呼吸器疾患、癌までの具体的な疾患に関して、評価から治療・訓練を特徴的疾患と共に説明・講義する。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	リハビリの概念, ICF, 相互作用モデル		
2	廃用症候群		
3	言語機能障害,排泄機能障害,嚥下機能障害		
4	脳血管障害① 脳梗塞,脳出血		
5	脳血管障害② くも膜下出血 テスト①		
6	パーキンソン病,多発性硬化症		
7	ALS,筋ジストロフィー		
8	変形性関節症,関節リュウマチ		
9	ギランバレー症候群 テスト②		
10	脊髄損傷 高位診断,病態,治療		
11	脳性麻痺,二分脊椎		
12	認知症		
13	熱傷		
14	ADL,IADL,ノーマライゼーション		
15	フィードバック		
【使用テキスト・参考文献】 標準リハビリテーション医学 参考文献：リハビリテーション医学 (PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎)		【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
画像診断学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	恒川 幸司	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 リハビリテーション医学においても、病勢や治療効果の判定をするために、画像診断が重要となってきた。さらに、近年では作業療法士国家試験でも画像から状況を問う問題が多数出題されている。そこで、各種画像診断検査の特徴や原理を理解し、画像による基本的な診断方法を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 グループワークおよび講義を行う。与えられた画像についてグループワークでの議論をもとに勉強し、それぞれの検査法における特徴・原理・診断法を学ぶ。講義はあくまでも学生自身の学びの助けとして行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各種画像診断法の原理と特徴が説明できる。 ● 解剖学の正常像を踏まえて、画像のロケーションを付ける事が出来る。 ● 各疾患の典型的な画像や所見から、診断を導き出すことができる。 ● グループワークによって分からない部分を挙げ、自分自身で勉強して解決することができる。 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	画像診断学総論		
2	単純 X 線写真		
3	X 線 CT		
4	その他 X 線を用いた診断法・核医学検査		
5	MRI		
6	内視鏡検査		
7	超音波検査		
8	復習・演習		
9	整形外科①		
10	整形外科②		
11	神経系①		
12	神経系②		
13	循環器・呼吸器系		
14	消化器系・その他		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 適宜配布資料</p> <p>参考文献： リハに役立つ脳画像 メジカルビュー リハビリテーションのための画像の見方 画像診断学 メジカルビュー</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験と学習態度の合計 60 点以上で合格 筆記試験 95% 学習態度 5%</p>	

授業概要			
薬理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	齋木 寛	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8	15	2年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>本講義では理学療法士や作業療法士において必要な薬理学の知識習得を目的として、指定テキストの内容に準じて講義を進めます。さらに近年の国家試験の出題傾向についても助言等を加えながら随時補足していきます。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>その他①在学中に「一次救命講習（CPRとAED）」の受講を推奨します。②読書の励行、図書館（校内・他大学・公共）の利用を推奨します。③医療従事者として（喫煙者は）「禁煙」を推奨します。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	薬理学総論（薬理学の概要）		
2	薬理学総論（薬の体内動態と薬理作用）		
3	薬理学総論（薬物療法の基礎）		
4	臨床薬理学（神経疾患・神経疾患の薬物療法）		
5	臨床薬理学（循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患の薬物療法）		
6	臨床薬理学（疼痛の制御・注意すべき薬物）		
7	重要事項の確認（要点 check）		
8	科目試験解説および総括		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
内山，他「薬理学・臨床薬理学 第1版」医歯薬出版 資料配布や文献紹介を随時加えます。		筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
栄養学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	山川 雄士	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8	15	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 人にとって不可欠な「食べる」という行為を,栄養という面からとらえることで健康と職に対する理解を深める.</p> <p>【授業全体の内容の概要】 栄養素の構造と機能を理解するために化学的な基礎知識と消化と吸収を理解するために人体の構造と機能を解剖学的・生理学的に学習する.</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 健康の維持及び疾病の予防と栄養の関連を理解し説明できる.</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	栄養学総論		
2	蛋白質とアミノ酸		
3	糖質と脂質		
4	ビタミン エネルギー代謝		
5	消化と吸収		
6	運動と栄養 リハビリと栄養		
7	主な病態の栄養管理		
8	静脈・経腸栄養 まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 「リハベーシック 生化学・栄養学」医歯薬出版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
健康支援学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 救急救命や予防領域に関する基礎的知識の習得を目的とする。また作業療法の観点から健康について考え、心理面や行動療法についても理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 救急救命や予防領域の基礎知識について講義・演習・グループワークを行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 健康に関して様々な側面から考え、説明することができる。救急救命についての基礎的知識、技術が習得できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション 健康とは		
2	生活習慣病における行動療法について①		
3	生活習慣病予防における行動療法について②		
4	生活習慣病予防について		
5	ヘルスリテラシー		
6	心理行動と健康支援		
7	サルコペニア・フレイル①		
8	サルコペニア・フレイル②		
9	一次救命処置 講義		
10	一次救命処置 演習①		
11	一次救命処置 演習②		
12	介護予防について①		
13	介護予防について②		
14	家族・結婚・子育てから健康を考える		
15	総復習		
[使用テキスト・参考文献] 配布資料		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
リハビリテーション概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 多職種連携の重要性を理解し、リーム医療の一端を担う専門職としての自覚を持つこと。また、リハビリテーションの概念（自立支援・就労支援）を知り、地域医療・地域法覚ケアシステムなどに対応するための基盤づくりを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 講義形式にて、リハビリテーションの概念から臨床までの基礎知識を学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの概念が説明できる。 2. 健康・疾病・障害と「国際生活機能分類（ICF）」について理解できる。 3. 地域包括ケアシステムについて理解できる。 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	リハビリテーションの概念・理念・定義		
2	健康と障害の概念と分類（ICF）		
3	障害の心理、心理的・社会的問題と受容		
4	ADL,QOL の概念と評価法		
5	リハビリテーション過程		
6	リハビリテーションの諸段階（職業リハビリテーション）		
7	医療とリハビリテーション専門職種と役割①		
8	医療とリハビリテーション専門職種と役割②		
9	チームアプローチ		
10	ADL,QOL の概念と評価法		
11	地域リハビリテーションと社会資源、在宅ケア		
12	地域包括ケアシステム		
13	地域包括ケアシステムの実践①		
14	地域包括ケアシステムの実践②		
15	まとめ		
[参考文献] 上好昭孝・土肥宣之：医学生のための手引書 リハビリテーション概論 永井書店		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
理学療法学概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	渋澤 里香	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8	15	1年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 理学療法および理学療法士について学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 理学療法の定義・理学療法士の業務内容について講義する。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 理学療法・理学療法士について理解することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	理学療法の定義と理学療法士について		
2	理学療法の実際Ⅰ（筋力増強訓練）		
3	理学療法の実際Ⅱ（関節化動悸訓練）		
4	理学療法の実際Ⅲ（トランスファー）		
5	理学療法の実際Ⅳ（心臓・呼吸器）		
6	理学療法の実際Ⅴ（内部疾患）		
7	理学療法の実際Ⅵ（物理療法）		
8	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] テキストは使用しない。		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
言語療法学概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	野津 清	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8	15	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士として活躍するために,知っておかなければならない言語聴覚療法の医療的知識や医療者としての取り組み姿勢を学修する.</p> <p>【授業全体の内容の概要】 「障害を診ずして障害者を診よ」.社会的な視野を持ち,人と向き合う作業療法士になるためには,幅広い知識が必要です.この講義では,脳卒中による言語機能障害や嚥下障害,聴覚の障害等における様々な知識と技術を,学生目線でわかりやすく講義致します.</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 受講し修得した医術や考え方を,臨床（患者のケア）にどう活かすかをイメージできるようになる.そして,3年後の自分の姿を想像し,障害部位や機能だけを診るのではなく,それに苦しむ“人”を診る作業療法士になるために必要なことは何かを考えることができる.</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	高次脳機能障害 ～概論～		
2	高次脳機能障害 ～失行・失認～		
3	高次脳機能障害 ～失語症①～		
4	高次脳機能障害 ～失語症②～		
5	構音障害・吃音		
6	聴覚障害 ～聴覚障害者とのコミュニケーション/手話～		
7	嚥下障害		
8	職業”作業療法士”として生きる		
<p>【使用テキスト・参考文献】 使用テキスト：なし（A4 ファイルをご用意ください） 参考文献：「言語聴覚療法 臨床マニュアル」 協同医書出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60 点以上合格</p>	

授業概要			
保健医療福祉概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	富高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士として必要な医療制度や社会福祉に関する基礎知識を習得し、チーム医療における役割の理解を目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 社会福祉・社会保障・社会保険の違いについて理解し、わが国における具体的な制度についての理解を深める。また作業療法士に関連する社会福祉について、グループワークも交えて相互理解を図る。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 社会保障制度について種類・特徴の説明ができる。 社会保険（医療保険・介護保険）の説明ができる。 対象者の自己実現に向けた、保健・医療・福祉の連携について説明ができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション なぜ保健医療福祉を学ぶか		
2	社会福祉の歴史①		
3	社会保障の種類と特徴		
4	社会保険制度について①（医療保険制度）		
5	社会保険制度について②（医療保険制度）		
6	社会保険制度について③（介護保険制度）		
7	社会保険制度について④（介護保険制度）		
8	公的扶助制度について		
9	保健制度について		
10	公衆衛生制度について		
11	障害者基本法について		
12	障害者総合支援法について		
13	障害者雇用促進法について		
14	総復習		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 参考文献：配布資料を使用		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60点以上合格。	

授業概要			
作業療法概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 本授業を通して、作業療法とは何かを考え、作業療法士の役割について理解する。その為、基礎となる哲学・概念・歴史を知り、身体・精神・高齢期などの各専門領域についても理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法を学ぶために、作業療法の成り立ちや、各領域における役割を、講義や演習を通して理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 作業療法に関心を持ち、作業療法に関する知識を得ようと努力することができる。作業療法とは何かを説明し、議論しあうことができる。作業療法の評価から治療に至る流れを説明できる。分野ごとの作業療法の役割と内容を理解することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション 作業療法とは		
2	作業療法の歴史と原理		
3	作業療法に関連する予備知識		
4	作業療法の実践現場		
5	作業の分析と治療への適用		
6	作業療法士の養成と教育		
7	作業療法の実践課程①		
8	作業療法の実践課程②		
9	身体機能分野における作業療法の実際		
10	精神機能分野における作業療法の実際		
11	発達過程分野における作業療法の実際		
12	高齢期分野における作業療法の実際		
13	作業療法部門の管理運営		
14	生活行為向上マネジメント（MTDLP）		
15	フィードバック		
[使用テキスト・参考文献] 能登真一：標準作業療法学 作業療法学概論 第4版 医学書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
基礎作業学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也・小泉 恵・講神 充代	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 対象者の作業を提案できるようになるため、作業が治療として成り立つ要件、治療法について実践を交えて理解する。生活に焦点化した作業療法を計画するために理論を学び、作業分析を通じて作業の意味・要素・機能を考察できる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業とは何かを理解し、作業分析を通じて作業活動を実践し、作業の特性を理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 対象者に合わせた作業を考え、その作業について分析し説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	作業分析演習①		
2	作業分析演習②		
3	作業分析演習③		
4	作業分析演習④		
5	人間と作業 作業の分類		
6	作業分析とは		
7	包括的分析①		
8	限定的分析		
9	作業療法理論について		
10	作業療法小範囲理論①		
11	作業療法小範囲理論②		
12	作業療法中範囲理論		
13	作業療法大範囲理論		
14	作業療法メタ理論		
15	総復習		
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>【使用テキスト】</p> <p>①標準作業療法学 基礎作業学 第3版 編集 濱口豊太 医学書院</p> <p>②標準作業療法学 作業療法学概論 第4版 編集 能登真一 医学書院</p> <p>【参考文献】</p> <p>「さをり織 好きに好きに織る」ぶどう社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
基礎作業学実習 I (革細工)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	森下 章生・富高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8	15	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法のアクティビティの一つである革細工について、その作業技術を理解し習得する。対象者に対し適切な作業を選択できるように学習する。作業に必要な用具、材料についても学び、活動がスムーズに行えるようにしたい。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 革細工での作品作りを行い、作業活動の一つである「革細工」の方法、道具などを知る。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 革細工で作品を作り、そのために必要な道具やその工程を理解することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	作業療法における革細工の概要・革細工に必要な用具、材料について名称と使用法を理解する		
2	革細工技法を習得する。(スタンピング法) コインケースの製作を通して。		
3	革の染色法を習得する。(色差し染め、拭き染め)		
4	革細工技法を習得する。(カービング法) 三つ折りキーケースの製作を通して。		
5	革の染色法(アンティック染め)を習得する。		
6	仕立ての学習(金具のつけ方など)を習得する。		
7	穴あけ、かがり方を習得する。		
8	ブレスレットの製作(習得技術の応用)・革の立体造形。(花ブローチもしくは動物マスコットの製作)		
[使用テキスト・参考文献] プリント配布		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60点以上合格 作品提出	

授業概要			
基礎作業学実習 I (陶芸)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	滝川 幸志・富高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8	15	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業の一つの特性を持つ陶芸作業を体験することで、作業学を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 実習</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 陶芸の作業手順通りに授業を進め、最終的に作品として焼成するまで行うことにより、基礎的な陶芸の知識と技術を得るとともに、作品を完成させる達成感を得ることも目標とする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	土練り・手びねり		
2	ひも作り・ロクロ		
3	たたら作り		
4	手びねり ひも作り 仕上げ		
5	素焼き窯出し 下絵付け,		
6	釉掛け 本焼き窯づめ,		
7	本焼き窯だし 陶芸概論		
8	七宝		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格. 作品提出	

授業概要			
作業療法研究法	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	安部 美和	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法という専門職の研究・発展に必要な研究基礎知識を特に量的研究と質的研究の両者から学びます。すでに発表された研究論文の読み方など研究の実際を学習する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法を行っていくうえでは、根拠をしめしたうえで実施していくことが必要となってくる。その根拠を見出すうえで必要な研究の成り立ちやその方法について教授する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 卒業研究の実施に必要な知識を学ぶ、研究が作業療法の発展に必要なことを理解する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	なぜ、作業療法士に研究は必要なのか		
2	研究にかかわる基礎知識		
3	研究とは、研究の心構え		
4	研究の流れ・目的・研究計画書		
5	倫理の一般原則、インフォームドコンセント		
6	研究の類型		
7	研究の進め方		
8	文献レビューⅠ		
9	文献レビューⅡ		
10	研究論文の発表と手続き		
11	読まれる文章の書き方		
12	卒論聴講		
13	卒論聴講		
14	まとめ総復習		
15	フィードバック		
[使用テキスト・参考文献] 標準作業療法学 専門分野 作業療法研究法 第2版 編集 山田孝 医学書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
作業療法管理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	松木平 和人	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 対象者に質の高い作業療法が提供できるように記録や設備・物品などの環境管理, リスク管理について学ぶ. また, 組織の一員としてのマネジメント能力を養う.</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法における管理運営, 職業倫理について講義形式及びグループディスカッションを実施.</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法における法令, 諸制度について理解する ・作業療法における多職種との関わりについて理解する ・作業療法におけるマネジメントについて理解する 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション・社会保障制度とは		
2	作業療法における法令及び諸制度 (医療分野)		
3	作業療法における法令及び諸制度 (介護分野)		
4	その他の法令及び諸制度		
5	作業療法士の職業倫理		
6	業務マネジメント① (組織, 療法士)		
7	業務マネジメント② (時間, ストレス, ハラスメント)		
8	リスクマネジメント		
9	作業療法士として今後の展望①		
10	作業療法士として今後の展望② (グループディスカッション)		
11	作業療法士として今後の展望③ (発表)		
12	多職種連携と地域連携		
13	作業療法士としての今後の展望④		
14	総復習		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 「標準理学療法・作業療法・言語聴覚障害学 別巻 リハビリテーション管理学」 医学書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
作業療法評価学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	安部 美和	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 具体的な評価方法を学ぶ前に、評価の意義を理解することで必要な評価項目を選択し、正確に実行することの大切さを 知る。現場で必要な評価が行えるようにする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 評価の意義・目的・手順・種類等、評価の基礎（総論）を学ぶ。バイタルチェックや面接法・ROM（上肢まで）は実 技を交えて学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] ・評価の意義・目的・手順・種類を理解する ・バイタルチェック・面接・ROM・Tを行えるようになる</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション・評価とは		
2	評価過程・治療計画		
3	評価の統合と解釈		
4	医療面接の意義・目的		
5	意識の評価		
6	バイタルサインの測定		
7	形態計測とは		
8	形態計測の方法		
9	ROM測定とは		
10	ROM測定の解釈		
11	ROM測定（方法）：肩甲帯		
12	ROM測定（方法）：肩甲帯		
13	ROM測定（方法）：肩関節		
14	ROM測定（方法）：肘・前腕・手関節		
15	フィードバック		
[使用テキスト・参考文献] 「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版」 医学書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、60点以上合格。	

授業概要				
作業療法評価学Ⅱ	授業の種類	授業担当者		実務経験の有無
	講義	安部 美和		有
授業の回数	時間数	配当学年・時期		必修・選択
15	30	2年・前期		必修
<p>【授業の目的・ねらい】 身体障害領域で主に必要な評価の意義を知ること、臨床現場で症例に必要な評価項目を選択することができるようになる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法を行う上では、面接・観察・検査・測定により対象者の全体像を把握できなければならない。本講義を通して主に身体領域の作業療法に必要な評価項目の意義と方法を中心に学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 身体障害領域で主に必要な評価の意義を述べるができる。</p>				
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法				
回	内容・備考			
1	筋力検査（種類・意義・目的・方法）			
2	知覚検査（意義・目的・方法）			
3	知覚検査のまとめ			
4	反射検査			
5	協調性検査			
6	姿勢反射検査			
7	筋緊張検査			
8	筋緊張検査			
9	ROM・MMT・反射検査の復習			
10	片麻痺機能検査（脳血管障害の評価）・脳画像			
11	脳神経検査			
12	画像（脳画像以外）			
13	摂食・嚥下機能検査			
14	上肢機能検査、評価まとめ			
15	フィードバック			
<p>【使用テキスト・参考文献】 「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版」 医学書院 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂</p>			<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
作業療法評価学Ⅲ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 評価の実際を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 精神科作業療法で実施する一般的な評価についての知識と方法を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 評価方法について説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	作業療法と評価		
2	精神機能作業療法評価学の基礎		
3	面接法		
4	質問紙法		
5	観察法		
6	行動観察		
7	実験的観察法		
8	集団評価法		
9	日常生活技能評価法		
10	検査法①		
11	検査法②		
12	検査法③		
13	疾患別評価①		
14	疾患別評価②		
15	フィードバック		
[使用テキスト・参考文献] 岩崎 テルコ 他：標準作業療法学 作業療法評価学 第4版. 医学書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
作業療法評価学実習 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	松木平 和人・安部 美和・吉野 孝弘	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 身体障害領域で主に必要な評価の目的を理解した上で、評価の方法を身に付ける、安全・正確かつ効率的に行えるようになる。評価の結果を正しく解釈する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 主に身体領域の作業療法で最低限必要となる評価項目について、安全・正確かつ効率的に行えるよう指導のもと、学生同士で交代しながら評価を行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 身体障害領域で主に必要な評価を行うことができる。 評価の結果を正しく解釈することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション・ROM測定：おさらい		
2	ROM測定：体幹・頸部		
3	MMT：肩・肩甲帯		
4	MMT：肘・前腕		
5	MMT：肘・前腕		
6	MMT：手・手指		
7	MMT：手・手指		
8	MMT：上肢まとめ		
9	MMT：股		
10	MMT：股		
11	MMT：膝・足		
12	MMT：膝・足		
13	MMT：下肢まとめ		
14	総復習		
15	総復習		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版」 医学書院 新・徒手筋力検査法 原著第10版 共同医書 PT・OTのための臨床技能とOSCE 金原出版株式会社 ベッドサイドの神経の診かた 第18版 南山堂		実技試験。60点以上合格。	

授業概要			
作業療法評価学実習Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	松木平 和人・安部 美和・吉野 孝弘	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 身体障害領域で主に必要な評価の目的を理解した上で、評価の方法を身に付ける、安全・正確かつ効率的に行えるようになる。評価の結果を正しく解釈する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 主に身体領域の作業療法で最低限必要となる評価項目について、安全・正確かつ効率的に行えるよう指導のもと、学生同士で交代しながら評価を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 身体障害領域で主に必要な評価を行うことができる。 評価の結果を正しく解釈することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	腱反射		
2	腱反射		
3	表在反射・病的反射		
4	表在反射・病的反射		
5	脳神経検査		
6	脳神経検査		
7	片麻痺機能検査		
8	片麻痺機能検査		
9	片麻痺機能検査		
10	片麻痺機能検査		
11	知覚検査		
12	知覚検査		
13	総復習		
14	総復習		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版」 医学書院 新・徒手筋力検査法 原著第10版 共同医書 PT・OTのための臨床技能とOSCE 金原出版株式会社 ベッドサイドの神経の診かた 第18版 南山堂</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 実技試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
作業療法治療学 I (中枢・その他疾患)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	安部 美和	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] この講義では、中枢神経疾患である脳血管障害および頭部外傷,その他対象となることの多い疾患の作業療法を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 中枢神経疾患,その他疾患のリハビリテーションについて具体例を挙げ,臨床イメージがつくように進めていく。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 中枢神経疾患,その他疾患の作業療法治療についてどのような方法があるか学ぶ。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	脳血管疾患について		
3	脳血管障害 (症状・評価項目)		
4	脳血管障害 (中枢性麻痺の特徴・ファシリテーションの考え方)		
5	脳血管障害 (急性期・回復期・維持期のリハビリテーション)		
6	頭部外傷		
7	頭部外傷		
8	パーキンソン病		
9	脊髄小脳変性症		
10	ALS・ギランバレー症候群		
11	多発性硬化症		
12	その他疾患		
13	症例検討		
14	総復習		
15	フィードバック		
[使用テキスト・参考文献] 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版 脳卒中最前線 第4版 医歯薬出版株式会社		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
作業療法治療学Ⅱ (高齢者・認知症)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 高齢者に対する作業療法を実施するにあたって必要な視点や知識を学ぶ。老いに対する認識から、認知症をはじめとする高齢者特有の疾患について考える。対象者の生活像から評価計画、プログラム立案のための知識を習得することができる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 講義・ディスカッション・演習を通し高齢者の特徴や背景を捉える。認知症の作業療法について、評価技術、治療技術を学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 高齢者の老いや生活背景を理解することができる。 認知症をはじめとする高齢者特有の疾患について理解することができる。 高齢者の作業療法について深めることができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	高齢化の進展,高齢社会の問題・老年期の特徴,生活課題		
2	老化について（生活機能遂行要素）老年期の課題		
3	高齢者の作業療法における医学知識①		
4	高齢者の作業療法における医学知識②		
5	高齢者の作業療法に必要な心理・社会学的知識		
6	人間作業モデル		
7	役割に対する評価・アプローチ		
8	興味に対する評価・アプローチ		
9	自己効力感に対する評価・アプローチ		
10	習慣・作業バランスに対する評価・アプローチ		
11	認知症の作業療法		
12	認知症発症と関連因子		
13	認知症の定義と分類・症状		
14	認知症の人の評価に向けて		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 山田 孝 他：クリニカル作業療法シリーズ 高齢期領域の作業療法 第2版 プログラム立案のポイント 認知症の作業療法・ソーシャルインクルージョンを目指して・第2版 小川敬之 武田徳則 編 医歯薬出版株式会社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験 60点以上合格</p>	

授業概要			
作業療法治療学Ⅲ（精神）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 精神科作業療法の役割と評価・アプローチ法を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 精神障害に対する医療の歴史，障害の捉え方，作業療法が果たす役割，治療構造，作業療法の流れを学習する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 1. 生活障害について説明できる。2. 認知機能障害について説明できる。3. アプローチ法が理解できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	精神保健医療福祉の動向と作業療法士の役割		
2	作業療法実践の基本的視点Ⅰ		
3	作業療法実践の基本的視点Ⅱ		
4	急性期作業療法の考え方と実際		
5	退院支援の考え方と実際		
6	地域生活支援のあり方と実際		
7	就労支援		
8	薬物療法		
9	認知行動療法Ⅰ		
10	認知行動療法Ⅱ		
11	認知行動療法Ⅲ		
12	認知機能障害における作業療法		
13	認知機能障害における作業療法		
14	家族療法		
15	まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 矢谷 令子・他：標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第3版. 医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
作業療法治療学Ⅳ（高次脳機能・心疾患・呼吸器疾患）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	富高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 ① 高次脳機能障害で使用する評価について学ぶ ② 高齢・障害における移動支援について学ぶ(自動車運転等) ③ 内部疾患の作業療法について学ぶ 【授業全体の内容の概要】 ① 高次脳機能障害の評価表を使用する（事前にマニュアルを読む） ② 地域の特徴・障害に合わせた移動支援の方法について ③ 内部疾患における作業療法の流れとアプローチについて 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ① 高次脳機能障害を評価する際に適切な評価を選択できる. ② 移動支援の特徴を理解し必要性について説明できる. ③ 呼吸器・循環器疾患の作業療法を理解して説明できる			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	各種高次脳機能障害への評価について①		
2	各種高次脳機能障害への評価について②		
3	各種高次脳機能障害への評価について③		
4	各種高次脳機能障害への評価について④		
5	各種高次脳機能障害への評価について⑤		
6	自動車運転における作業療法①		
7	自動車運転における作業療法②		
8	摂食・嚥下障害について①		
9	摂食・嚥下障害について②(喀痰吸引)		
10	循環器疾患における作業療法①（作業療法士の介入について）		
11	循環器疾患における作業療法②（作業療法）		
12	循環器疾患における作業療法③		
13	呼吸器疾患における作業療法①		
14	呼吸器疾患における作業療法②		
15	まとめ・振り返り		
【使用テキスト】 標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 2024年度版 医学書院		【単位認定の方法及び基準】 ①レポート(50点：S50点,A40点,B30点,C20点の4段階評価. 提出期限の厳守, 内容判断) ②発表・取り組み姿勢 10点 ③筆記試験 40点 ①～③の合計で 60点以上が合格	

授業概要			
作業療法治療学Ⅴ（発達）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義＋演習	小西 由夏	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 発達に配慮が必要な子どもたちに対して作業療法はどんな視点からアプローチができるか知ってもらう。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 講義と実技を取り入れながら,具体的に理解してもらえるように授業を工夫していく予定です.また,実際の現場での話や映像をお伝えして,臨床のイメージを高めてもらえるようにしていきます.</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 臨床的思考過程を学ぶための基礎知識を身につける.</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	発達期の作業療法（概論）		
2	発達期の評価		
3	脳性麻痺（1）		
4	脳性麻痺（2）		
5	重症心身障害		
6	実技 寝返り動作分析 実習室使用		
7	脳性麻痺 ICFまとめ（GW）		
8	発達課題と作業療法		
9	発達障害		
10	知的障害・感覚統合		
11	発達障害 ICFまとめ（GW）		
12	ダウン症 ICF・プログラム作成（GW）		
13	筋ジストロフィー,骨疾患など		
14	法制度 家族支援		
15	テスト解説又は補足		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準作業療法学 発達過程作業療法学 第3版 医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験 60点以上合格.</p>	

授業概要			
作業療法治療学VI (整形)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	吉野 孝弘	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 整形外科疾患である、骨折・リウマチ・脊髄損傷・末梢神経損傷、および熱傷などを取り上げて、作業療法士に必要な治療について学習する。また、作業療法士に必要な評価・治療を基礎に、ADL・治療技術を習得し、症例検討をとおして作業療法の全体の流れを把握する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 骨折・関節リウマチ・脊髄損傷・末梢神経損傷・熱傷を中心とした疾患のリハビリテーションを考案し、作業療法の実践を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 整形外科疾患を中心としたリハビリテーションの知識を学び、治療の流れを把握することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	末梢神経損傷とは		
3	末梢神経損傷のADL (グループワークを含む)		
4	末梢神経損傷のアプローチ		
5	脊髄損傷とは		
6	脊髄損傷のADL (グループワークを含む)		
7	脊髄損傷のアプローチ		
8	腕神経叢麻痺とは		
9	腕神経叢麻痺 (グループワークを含む)		
10	腕神経叢麻痺のアプローチ		
11	関節リウマチとは		
12	関節リウマチのADL (グループワークを含む)		
13	関節リウマチのアプローチ		
14	火傷・腱損傷・その他		
15	総復習		
[使用テキスト・参考文献] 配布プリント		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60%以上合格。	

授業概要			
作業療法治療学Ⅶ (認知症・代謝・がん)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 認知症・代謝系疾患・がんにフォーカスし,高齢者をはじめとする対象者の疾患に対する評価・治療技術について学ぶ</p> <p>【授業全体の内容の概要】 認知症・代謝系疾患・がんにおける概念の理解と,作業療法の訓練や評価について知識を深める.講義・演習・事例検討を行う.作業療法治療学Ⅱの知識を通じて学習する</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 上記疾患に対する作業療法の知識や視点を習得し,作業療法評価や治療計画が立案できる.</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	認知症に対する薬物療法		
2	認知症に対する非薬物療法		
3	認知症の方とのコミュニケーション		
4	認知症をどう理解するか		
5	認知症評価の実際		
6	認知症評価の実際②		
7	代謝系疾患に対する作業療法①		
8	代謝系疾患に対する作業療法②		
9	代謝系疾患に対する作業療法③		
10	がんに対する作業療法①		
11	がんに対する作業療法②		
12	がんに対する作業療法③		
13	事例検討		
14	事例検討		
15	総復習		
<p>【使用テキスト・参考文献】 認知症の作業療法・ソーシャルインクルージョンを目指して・第2版 小川敬之 武田徳則 編 医歯薬出版株式会社 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版 山口 昇 玉垣 努 李 範爽 編</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
作業療法治療学Ⅷ（精神）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 精神系作業療法に関する技法を体験することによって治療計画の立案の一助とする。疾患・障害特性に応じた作業療法を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 精神系作業療法に関連する技法を体験する。また、講義形式にて疾患・障害特性に応じた作業療法を学習する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 疾患・障害特性に応じた作業療法を説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	統合失調症の作業療法		
2	統合失調症の作業療法		
3	気分障害の作業療法		
4	気分障害の作業療法		
5	人格障害の作業療法		
6	神経症性障害		
7	ストレス関連障害および身体表現性障害		
8	発達障害の作業療法		
9	摂食障害の作業療法		
10	アルコール依存症の作業療法		
11	就労支援における作業療法		
12	地域生活支援における作業療法		
13	司法精神医療における作業療法		
14	症例検討（MRDLP）		
15	まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 矢谷 令子・他：標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第3版。医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験（60%）レポート（40%）。合算し60点以上合格。</p>	

授業概要			
作業療法治療学Ⅸ（高次脳）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	石井 文康	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 【キーワード】 高次脳機能障害, 言語, 行為, 認知, 記憶</p> <p>[授業全体の内容の概要] 高次脳機能障害についての臨床症状の理解を深め, 症例検討を行う.</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 高次脳機能障害についての臨床症状の理解を深め, 症状検討を行った際に, 積極的な意見が出せる.</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	脳機能概論Ⅰ		
2	脳機能概論Ⅱ		
3	高次脳機能障害学概論Ⅰ		
4	高次脳機能障害学概論Ⅱ		
5	失語・失行・失認等の臨床像Ⅰ		
6	失語・失行・失認等の臨床像Ⅱ		
7	高次脳機能障害の評価・介入法Ⅰ		
8	高次脳機能障害の評価・介入法Ⅱ		
9	高次脳機能障害の評価・介入法Ⅲ		
10	高次脳機能障害の評価・介入法Ⅳ		
11	高次脳機能障害の評価・介入法Ⅴ		
12	高次脳機能障害のまとめⅠ		
13	高次脳機能障害のまとめⅡ		
14	高次脳機能障害のまとめⅢ		
15	高次脳機能障害のまとめⅣ		
<p>[使用テキスト・参考文献] 配布資料 矢谷令子監「高次脳機能作業療法学 第2版」医学書院</p> <p>参考書籍： 石合純夫著 「高次脳機能障害学第3版」 医歯薬出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] レポート課題. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
義肢装具学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	武藤 光弘	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 作業療法士に必要な義肢・装具の構造や機能の知識と評価法、およびリハビリテーション医療におけるプログラムのたて方を修得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 解剖学、運動学、一般医学等の知識を統合した義肢装具作業療法を学ぶために、PBL（Problem-based Learning: 問題解決型学習）授業を行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 義肢装具士、理学療法士などコメディカルとの関わりを学び、チームワークとしての連携ができる。 装具・義肢について提示された症例の適応を口頭で発表できる。 義肢・装具の基礎知識について理解し、問題を解くことができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	ガイダンス、義肢装具学概論		
2	装具療法の考え方		
3	上肢装具、疾患と適応（目的、分類、評価と訓練、PBL1）		
4	上肢装具、評価と訓練（PBL1）		
5	上肢装具、評価と訓練（PBL1 発表）		
6	体幹装具、疾患と適応（目的、分類、評価と訓練、PBL2）		
7	体幹装具、評価と訓練（評価と訓練、PBL2 発表）		
8	下肢装具、疾患と適応（目的、分類、評価と訓練、PBL3）		
9	下肢装具、評価と訓練（PBL3 発表）		
10	切断と義肢（障害の分類、義肢の種類と適応）		
11	上肢切断、疾患と適応（目的、分類、評価と訓練、PBL4）		
12	上肢切断、評価と訓練（PBL4 発表）		
13	下肢切断、疾患と適応（目的、分類、評価と訓練、PBL5）		
14	下肢切断、評価と訓練（PBL5 発表）		
15	まとめ		
<p>[使用テキスト] ・「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 義肢装具学」山中武彦，中村恵一 編 メジカルビュー社</p> <p>[参考文献] ・「義肢装具学」佐伯覚 編 医学書院 ・「義肢装具と作業療法 評価から実践まで」大庭潤平，西村誠次，柴田八衣子 医歯薬出版 ・「リハビリテーション 義肢装具学」清水順一，青木主税 編 メジカルビュー社</p> 必要に応じてプリントを配布する。		<p>[単位認定の方法及び基準] 筆記試験（50%）,発表（50%）で評価する。 60点以上で合格</p>	

授業概要			
義肢装具学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	武藤 光弘	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 義肢装具学で学んだ知識をもとに、主に上肢の装具療法を含めた作業療法の評価、プログラムのたて方、訓練の内容について実習する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 熱可塑性樹脂などによる装具の作成及び装着経験を通して、疾患別作業療法を学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 疾患、障害に合わせて適応を考え、装具療法を含めた作業療法プログラムを立てることができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	ガイダンス、装具療法に必要な解剖学的知識		
2	装具療法の基礎知識		
3	疾患別装具療法の実践1：末梢神経障害（装具作成）		
4	疾患別装具療法の実践1：末梢神経障害（装具作成）		
5	疾患別装具療法の実践1：末梢神経障害（装具作成）		
6	疾患別装具療法の実践1：末梢神経障害（装具作成）		
7	疾患別装具療法の実践2：脳血管障害（装具作成）		
8	疾患別装具療法の実践2：脳血管障害（装具作成）		
9	疾患別装具療法の実践2：脳血管障害（装具作成）		
10	疾患別装具療法の実践2：脳血管障害（装具作成）		
11	疾患別装具療法の実践3：拘縮（装具作成）		
12	疾患別装具療法の実践3：拘縮（装具作成）		
13	疾患別装具療法の実践3：拘縮（装具作成）		
14	疾患別装具療法の実践3：拘縮（装具作成）		
15	発表、まとめ		
<p>【使用テキスト】 ・「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 義肢装具学」山中武彦，中村恵一 編 メジカルビュー社</p> <p>【参考文献】 ・「義肢装具学」佐伯覚 編 医学書院 ・「義肢装具と作業療法 評価から実践まで」大庭潤平，西村誠次，柴田八衣子 医歯薬出版 ・「リハビリテーション 義肢装具学」清水順一，青木主税 編 メジカルビュー社</p> 必要に応じてプリントを配布する。		<p>【単位認定の方法及び基準】 発表（50%） 作成物（50%）で評価する。 60点以上で合格。</p>	

授業概要			
日常生活活動学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	松木平 和人	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 日常生活活動（手段的日常生活動作を含む）に対する基本的な作業療法について理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 日常生活活動学の概念について講義を実施。また評価のスケールである Barthel Index,機能的自立度評価（FIM）及び支援方法について演習を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活活動（手段的日常生活動作を含む）の概念について理解する ・日常生活活動（手段的日常生活動作を含む）の評価について説明できる ・日常生活活動（手段的日常生活動作を含む）における支援について説明及び模擬実践ができる 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション,日常生活活動とは①（概念,なりたち）		
2	日常生活活動とは②（基本的日常生活動作と手段的日常生活動作）		
3	基本的日常生活動作①（食事,排泄）		
4	基本的日常生活動作②（更衣,整容）		
5	基本的日常生活動作②（入浴,移動）		
6	手段的日常生活動作③（調理,洗濯）		
7	手段的日常生活動作③（掃除,その他）		
8	日常生活活動評価①（FIM）		
9	日常生活活動評価②（FIM）演習		
10	日常生活活動評価③（BI）		
11	日常生活活動評価④（その他）		
12	日常生活活動評価⑤（その他）		
13	日常生活と装具・福祉用具・住環境		
14	日常生活活動とは③（総復習）		
15	フィードバック		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
「標準作業療法学 専門分野 日常生活活動学・社会生活行為学 第2版」 医学書院		筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
日常生活活動学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	松木平 和人	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 日常生活活動における動作の分析及び問題点の抽出方法を学ぶ 基本的動作の介助方法を学ぶ 対象者の一連の日常生活支援について学ぶ</p> <p>【授業全体の内容の概要】 日常生活活動の動作分析と移乗方法、問題点抽出を実践する</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活活動の動作分析手順が理解できる ・基本的動作の介助方法について理解できる ・対象者の一連の日常生活支援について理解できる 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション・基本的日常生活動作の分析①（起居）		
2	基本的日常生活動作の分析②（立ち上がり）		
3	基本的日常生活動作の分析③（食事）		
4	基本的日常生活動作の分析④（排泄）		
5	基本的日常生活動作の分析⑤（更衣）		
6	基本的日常生活動作の分析⑥（入浴）		
7	ADL 介助法①（臥位～座位）		
8	ADL 介助法②（座位～立位）		
9	ADL 介助法③（移乗）		
10	ADL 介助法④（移乗）		
11	症例を通して① ADL 評価		
12	症例を通して② ADL 評価		
13	ADL 治療法①（グループワーク）		
14	ADL 治療法②（グループワーク）		
15	ADL 治療法発表		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
「標準作業療法学 専門分野 日常生活活動学・社会生活行為学 第2版」 医学書院		レポート課題（70%），発表（30%）．レポート及び発表の合計が60点以上合格．	

授業概要			
レクリエーション学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	佐名木 めぐみ	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士としてのレクリエーションの計画や立案,実施ができるようになるために必要な理論や知識,態度を学ぶことができる.レクリエーションを通して楽しみや,その先の対象者の生活を考えることができる. 事例に合わせたレクリエーションを考え,考察することができる.</p> <p>【授業全体の内容の概要】 実際のレクリエーションを体験することや,レクリエーションを作業療法士が考えるにあたって必要な知識や,理論を講義や演習,ディスカッションを通して行っていく.</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 レクリエーションに対する基本的な考え方を習得する. 作業療法士がレクリエーションを企画する際に必要な知識や理論を習得する. 対象者に合わせたレクリエーションの企画,実施できる.</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	レクリエーションの概要 レクリエーションの目的・計画		
2	レクリエーションの実施①		
3	レクリエーションの実施②		
4	レクリエーションの実施③		
5	中間まとめ		
6	レクリエーションの企画書作成		
7	レクリエーション準備①		
8	レクリエーション準備②		
9	レクリエーション準備③		
10	レクリエーション運営①		
11	レクリエーション運営②		
12	レクリエーション運営③		
13	レクリエーション運営④		
14	SST①		
15	SST② まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 適宜資料（プリント,スライド）を配布 実技を伴うため,動きやすい服装が望ましい. 資料を挟むバインダーなど. 他,演習やディスカッションを行う.</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 レポート課題. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
職業関連活動学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8	15	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 就労支援における作業療法の位置づけを理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 職業リハビリテーションの理念と意義について学ぶ。職業リハビリテーションにおける作業療法士の役割を理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 職業リハビリテーションの理念と意義を説明できる。職業リハビリテーションにおける作業療法の役割を説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	職業リハビリテーション活動の概念		
2	障害者と職業		
3	障害者の就労制度		
4	就労支援の実際（ジョブコーチ, IPS）		
5	作業療法評価課程		
6	作業能力評価の方法と実際Ⅰ（一般職業適性検査）		
7	作業能力評価の方法と実際Ⅱ（職業レディネステスト）		
8	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第3版 医学書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60点以上合格	

授業概要			
作業療法治療学演習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		演習	木立 美由紀・安部 美和・佐名木 めぐみ ・廣瀬 達也・松木平 和人・富高 史裕
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
60	120	3年・前期・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 作業療法教育を受けてきた集大成として卒業研究を行い、国家試験合格に必要なレベルまでの知識の習得を目指す</p> <p>[授業全体の内容の概要] 卒業研究と国家試験対策</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 卒業研究の発表・国家試験合格レベルまで模試での得点がとれる</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
	内容・備考		
1-6	臨床で経験した作業療法評価技術のまとめ		
7-12	臨床で経験した作業療法評価技術理論のまとめ		
13-18	臨床で経験した治療技術のまとめ		
19-25	臨床で経験した治療技術理論のまとめ		
26-31	各症例に関する臨床的推論についての討議		
32-38	テーマ決定,文献による学習・まとめ,卒業論文作成		
39-45	テーマについてグループ討議		
46-52	パワーポイントなど発表準備,抄録作成		
53-60	卒業論文,発表		
[使用テキスト・参考文献] 使用テキストなし		単位認定の方法及び基準 下記の①, ②で評価し,60点以上を合格とする ① 筆記試験 50点 ② 卒業論文 50点	

授業概要			
臨床作業療法学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	富高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
60	120	3年・通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 国家試験の合格のために必要なことで</p> <p>① 学習スタイルの見直しする ② 基礎三科目(解剖学, 運動学, 生理学)を理解する ③ 作業療法専門分野を理解するために必要な知識を身につける</p> <p>[授業全体の内容の概要] グループワークにてスケジュールに沿って実施</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 国家試験を受験して合格できるレベル</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
	内容・備考		
1-15	作業療法に関する解剖学的思考		
16-30	作業療法士に関する運動学的思考		
31-45	作業療法士に関する生理学的思考		
45-60	作業療法に関する総合的理解及び推論		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		①・②を合わせて60点以上を合格とする	
		①筆記試験: 50点	
		②小テスト・課題: 50点	

授業概要			
地域作業療法学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法が対象とする領域は、医療機関から地域へと広がっている。本科目では地域における様々な対象者に対し、その地域背景や制度を理解しながら、各領域での作業療法評価・治療計画の立案、実施について考えていく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 地域での作業療法、役割の理解と制度、支援、他職種との連携について学習する。また、生活行為向上マネジメント（MTDLP）演習を取り入れ、対象者の全体像を把握する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 地域における作業療法士の役割を理解し講義や演習を通して、チームアプローチの必要性や社会サービスを理解し説明できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション 地域作業療法の基盤と背景		
2	地域作業療法を考察する		
3	地域作業療法を支える制度・社会生活支援 地域包括ケアシステム		
4	他職種の連携と協働を理解する		
5	各領域における作業療法士のリスクマネジメント		
6	地域作業療法の事例演習①		
7	地域作業療法の事例演習②		
8	地域作業療法の実践事例発表		
9	MTDLP 講義		
10	MTDLP 演習①（シート作成演習）		
11	MTDLP 演習②（身障系作業療法）		
12	MTDLP 演習③（精神系作業療法）		
13	MTDLP 演習④（老年期作業療法）		
14	MTDLP 演習⑤（発達系作業療法）		
15	総復習		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準作業療法学 地域作業療法学第4版 医学書院 作業療法マニュアル75 生活行為向上マネジメント 改訂第4版 一般社団法人 日本作業療法士協会</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
生活環境学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業と環境を切り離して考えることは難しく、種々の環境を移動しながら人間は生活を構成している。高齢者や障害者の日常的な生活の中で、住まいをどうすればいいか、住環境の整備ポイントを学ぶ。個々の福祉用具の特徴を押さえ、対象者に合わせた生活を提供する必要性を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 実習・講義を通して、住環境整備のポイントを押さえていく。福祉用具やリハ機器の名称、使い方を理解する。毎回の授業では前回の授業で学んだ知識を定着させるために振り返りの時間を設ける。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 疾患に合わせた住環境整備の方法を学ぶことができる。福祉用具の特徴を整理し、個々の事例に合わせた目標設定ができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション,生活環境学とは		
2	住環境整備の意義		
3	住環境整備の進め方と留意点		
4	住環境整備の基本的配慮①		
5	住環境整備の基本的配慮②		
6	住環境整備の基本的配慮③		
7	住環境整備の基本的配慮④		
8	疾患障害別にみる住環境整備①		
9	疾患障害別にみる住環境整備②		
10	疾患障害別にみる住環境整備③		
11	疾患障害別にみる住環境整備④		
12	疾患障害別にみる住環境整備⑤		
13	移動用具福祉用具と住環境整備		
14	自助具について		
15	フィードバック		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
OT・PTのための住環境整備論 第3版 三輪書店		筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
地域作業療法学実習 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		実習	木立 美由紀・安部 美和・吉野 孝弘・佐名木 めぐみ・廣瀬 達也・松木平 和人・富高 史裕
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
	40	1年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 地域でデイサービス、デイケア等の役割を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 地域でのデイサービス・デイケア等の役割を理解するために、実習を行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 地域でデイサービス、デイケア等の役割がわかる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
内容・備考			
<p>1年次の8～9月にかけて40時間を1施設で実習する。</p> <p>デイリーノートと感想文の提出を求める。</p> <p>実習報告会を行う。</p> <p>*対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		実習施設での評価に、学校での発表等を加味し採点。60点以上合格。	

授業概要			
地域作業療法学実習 II	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		実習	木立 美由紀・安部 美和・吉野 孝弘・佐名木 めぐみ・廣瀬 達也・松木平 和人・富高 史裕
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
	40	2年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 地域でデイサービス、デイケア等を利用する対象者の問題点を理解する</p> <p>[授業全体の内容の概要] 地域で作業療法士が働く場を利用する対象者の問題・施設の必要性を知るために実習を行う</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 地域でデイサービス、デイケア等を利用する対象者の問題点が理解できる</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
内容・備考			
<p>2年次の7～8月に40時間を1施設で実習する。</p> <p>デイリーノートと感想文の提出を求める。 実習報告会を行う。</p> <p>*対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		実習施設での評価に、学校での発表等を加味し採点。60点以上合格。	

授業概要			
臨床実習 I (見学)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		実習	木立 美由紀・安部 美和・吉野 孝弘・佐名木 めぐみ・廣瀬 達也・松木平 和人・富高 史裕
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
	80	1年・後期	必修
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> ・地域での病院・施設の役割やリハビリテーション部門の概略を理解する. ・社会や医療の中における作業療法の責任を理解する. ・患者様や指導者・スタッフのコミュニケーションのとりかたを学ぶ. ・社会人・職業人としての目を養い,心を養う. ・作業療法士になることへの動機づけを高め,以後の学習への意欲を高める. [授業全体の内容の概要] [授業終了時の達成課題(到達目標)]			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
	内容・備考		
	<p>1年次の所定の科目を履修した学生は学年末に80時間を2施設で実習する.</p> <p>デイリーノートと感想文の提出を求める.</p> <p>実習報告会を行う.</p> <p>＊実習前に,検査測定法を完璧に記憶し反復練習をしておくこと.</p> <p>＊対象者様と接する実習であるため,「甘え」は禁物である.全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること.対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること.</p>		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		<p>実習指導者による評定を基に,実習判定会議にて60%以上の成果をもって合格とする.</p>	

授業概要			
臨床実習Ⅱ（評価）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		実習	木立 美由紀・安部 美和・吉野 孝弘・佐名木 めぐみ・廣瀬 達也・松木平 和人・富高 史裕
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
	200	2年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ知識・技術を実習指導者の下で実際に症例に応用する。 ・評価の一連の流れを習得する。 ・症例の身体機能,精神機能,生活機能を様々な角度から分析し,問題を把握する。 ・医療人・職業人としての目を養い,心を養う。 ・患者様や指導者・スタッフのコミュニケーションのとりかたを学ぶ。 ・社会人・職業人としての目を養い,心を養う。 ・作業療法士になることへの動機づけを高め,以後の学習への意欲を高める。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
内容・備考			
<p>2年次の所定の科目を履修した学生は,学年末に200時間を1施設で実施する。</p> <p>デイリーノート,作業療法参加型チェックリストの提出を求める。</p> <p>実習報告会を行う。</p> <p>*実習前に,検査測定法を完璧に記憶し反復練習をしておくこと。</p> <p>(注意)</p> <p>対象者様と接する実習であるため,「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		実習指導者による評定を基に,実習判定会議にて60%以上の成果をもって合格とする。	

授業概要			
臨床実習Ⅲ（臨床）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
		実習	木立 美由紀・安部 美和・吉野 孝弘・佐名木 めぐみ・廣瀬 達也・松木平 和人・富高 史裕
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
	640	3年・前期・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価実習の経験を生かし、対象者様の全体像をとらえ目標設定をおこない、実習指導者の指導の下で作業療法プログラムを立案、実施する。 ・対象者様との交流を通して、生活の視点を養う。 ・リハビリテーションチームのあり方を学ぶ。 ・専門職・社会人として責任のある態度・行動がとれるようになることを目指す。 ・患者様や指導者・スタッフのコミュニケーションのとりかたを学ぶ。 ・社会人・職業人としての目を養い、心を養う。 ・作業療法士になることへの動機づけを高め、以後の学習への意欲を高める。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
	内容・備考		
	<p>2 施設で計 640 時間の実習をおこなう。</p> <p>デイリーノート,作業療法参加型チェックリスト,MTDLP 関連シートの提出を求める。</p> <p>実習報告会を行う。</p> <p>* 実習前に,検査測定法を完璧に記憶し反復練習をしておくこと。</p> <p>(注意)</p> <p>対象者様と接する実習であるため,「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>		
[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]		
	実習指導者による評定を基に,実習判定会議にて 60%以上の成果をもって合格とする。		